

内部調査

日時 : 令和元年 10 月 31 日 (木) 9:00～9:50
 対象者 : 准教授 (教育学部 体育科教員 検討チーム構成員)
 調査担当 : 法人事務局長、教育推進部部長
 立会い者 : 氏 (水泳実習安全管理担当顧問)

聴き取り内容 :

○体育の教員として、今回の事故に対するご意見をお聞かせください。

学生の希望に添って行われた企画で逆にこういう事態が起こったことはあってはならないことであり、言い様がありません。検証チームの一員であった私が思うのは、今後の対策を練るには、なぜ寺岡君が亡くなってしまったのかという原因の究明が大事であり、事実をしっかり押さえておくことだということです。講義だけでなく、実技を行ってきている者としては、なぜそのような事態が起こったのかということ把握しなければ、今後の対策を見通すことはできない。最後の亡くなり方とか、ビデオも見ましたが意識消失を起こし、それは長い潜水が原因。なぜそんな長い潜水が必要だったのか。それをするにどういう意味があったのか。そういうことだと思います。そこをどういう風に認識し指導に当たられたのか、あるいは寺岡君本人がどういう風なことで長い潜水に至ったのか、ということです。そこは触れにくいところです。なぜそういうことが起こったのか、事実と照らし合わせていくしかない。推測ではなくて、も犯人探しではないと仰せられ、それは正確な情報が欲しいからだと思います。ご遺族としては、なぜ息子がこうなってしまったのか、ということです。検証報告は教育機関である大学としてできる対策という視点に立って議論を重ねたものであるが、私からは、長い潜水が背景にあることを予見した上で進言している。文科の資料 (水泳の手引き) も見直しました。他、学習指導要領でどういうことが記載されているのか。小学校の要領は結構見ているのですが、中・高ではどういう風に解説されているのか。やはり、長い潜水をしないという趣旨のことが書かれてある。対策は、学習指導要領をしっかりやること。しっかりと読むことだと思うのです。長い間潜水しているということ自体の意味がなんなのか。ちゃんと監視体制ついていないといけないけれど、深く潜ってしまうとわからないこともある。だから、大概のプールは潜水禁止に思われる。大概ではなくても一般的にはそういう判断となる。監視が指導しますし、だからそこは思うのです。長い潜水は認めたらあかん。だから、今後の対策としては、その部分の事前指導や最中のところでどうするのか、ということです。もちろん全てを事前にというわけではない。たとえば、初めて何かを学ぶようなものに関して、たくさんの注意事項を言い過ぎてもうまくいかない。それが伝わってなかったら、それは指導ではない。だから最初のところと、泳いでいる途中、何か違うことをしていたら、その時に指導をすることになる。そうやって行るのが指導なので、事前に約束事とか、どういう形でどういう順番で行くのかとか、隊を作るとか、1 列でどうやって行くのかとか、途中で上がるとか、ここで上がるとか、最低限のルールを予めやるというのが大切になってくる。それに対してどういう風な指導をするか。

○次の質問にも絡んでお答えいただいている状況ですが、先生が正課、正課外の実習等における安全対策についてどのようにお考えになられておられますか。すでに結構触れた形でお話いただいています。

大学の先生というのは、1 つの教室を任されて独立自営業のようなところがある。実際、教室でやります、グラウンドでやりますという場合、授業中に許可なく他人が入ってこられると困る。そこには教員と学生が醸し出す重要な空気というのがあって、それが学生を育てる空気であったりする。ですから、途中で他人がバーンと入ってこられても困る。教員は

それくらいの気持ちだと思う。心理療法でも同じです。相談している途中で他人が入ってこれると困る。そういう風な感じ。教員一人一人が一つの授業全体を通して運営していくというのは当然なので、あまり人の指導に口出しをしないし、しにくいというところもある。その先生が何を意図に持っているのかはわからない。教育の成果を今の瞬間に求めているのか、明日やその先につながるのかなのか。どこにポイントを置いているのかはその時々でわからない。だからあまり言えない。しかし私はこのことがあって、自分の考えが変わってきました。というのは、この間のスキーや水泳に限らず、寺岡君の事故以降、おかしいと思う発言や行動に対しては、結構強く指摘するようになっていました。年齢や上下関係無しにそれはやらないといけな。この事故でかなり私は変わりました。人を選んで話をすることはなくなった。安全のためにどうするのかということも学生に以前よりも言うようになりました。寺岡君の、彼の死は決して無駄ではないと思っています。ただし、そんな簡単に話せるようなことではない。

(先生には独立企業の個人オーナーのような独立した先生方の授業運営があって、そこにはあまり中には介入するのは難しいというお話しがあった。ところが今回の事故を契機に例えば横断的に例えば安全管理についてのガイドラインについて各先生が共有するという必要になった？)

それは大事です。それはそう思います。私ら、個人でやっている授業と、スキーやスノーボードのように多様な専門的背景を持つ先生方を 10 人位でチームを組んで行う授業があります。以前からそうやっているのですが、そこら辺の体制もかなり厳密になってきている。というのは、百人以上の人間が動くものですから、100%予見できないことがある。でもそれを 100%に近づけていくしかない。例えば有事の対応。予め、この場面ではどうしようとかということもやって。学生スタッフともそれを共有していく。共有していくことも、今まさしくやっているところです。

(寺岡さんの事故は無駄ではなかったというお話しでしたが、この水泳指導実習に関しては、各先生が共有するという安全のガイドラインというものは、当時はなかった。)

その時はなかった。というのは、教採・公務員対策室から、こういう風な指導してもらえないか、という形でこまめに依頼が来る。だから、全員が関知しているわけではない。特にこの時期は体育に限らず、こまめに色んな先生が、音楽でも対策をやっていますし、結構それに力を入れているところがあります。どの教員がいつ、何をしているのかというのは、ずっと追跡できるわけではない。ただこの事故が起きた水泳についてだけは、事前メールに CC で私宛に通知がきていた。ああやはるんやな、というのがあった。それはなぜかという、結構いろんな対策があって、体育館でもマット運動とかやりますし、だから先生方に負担もかけ過ぎてはいけなので、1 回対策室に配慮を言った。■■■先生と■■■先生が水泳のことでやられるので、そこをわかった上でやってほしいという趣旨のことを。だから、その年のマットは私が 1 人でやっていたと思います。そういうことがなかったら、いつ誰がどこで指導しているかわからないというのが実際であって、瞬間、瞬間に来るような依頼もある。

(うちの個別の取り組みについての安全管理はそれぞれの教員にゆだねられているという、状況だった。)

そうです。今私が思うのは、昔あった講座制がいいということです。運動関係や看護や PT といった領域は、ある程度の指導上の共有があった方がよい。そういう体制下では、さらに共有事項が出てくるし、今どういうことを誰がされているのかということを理解出来ます。昔の大学は、講座制だったのです。でも、今は文科省が認めてなく、大きい学科っていう括りになっています。昔の大学は講座生のため、この辺りのことはキチンとしていた。

(全てものの見方というか、観点によって、事象がどうにも、こうにも取れるじゃないですか。皆さんがお気づきでなかった部分で、1 つ見解を述べさせてもらったのは、■■■先生の位置なんですね。50m プールの 25m 地点に座っているという、であれをほんとにパッと見たときに、観念的にパッと見たときには 50m 泳いだときにこっちを見ていないじゃないか。何で真ん中に座っているんだという話は大方の感想なんです。あえて客観的なことを言うとして、正しい位置ではないかと思うと言った。それはなぜかという、■■■先生の指導は 25m を泳ぐことを課題とし、25m を見てあげるよ、

ということであれば、スタートから 25m 地点までは見ていた。見ていて、最後に上がってきたところで指導して、また循環する。これは指導法としては悪くない。そのポジションは、悪くない。)

全く悪くない。むしろそこを超えたときに、という話です。

(一つ先生のご見解を伺いたいのは、例えば寺岡君は、泳げる。事前の指導もお手伝いをする立場で、いわゆるその当時のプログラムからするとちょっとレベルがあがった方だった。先生のお手伝いもしていた。先生も評価もしていたでしょうし、助かっと思って感謝もしていた。そのプログラムに収まる子ではない、ということで、コースを変えて 50m を自由に泳ぐということを認めていた。このへんのよくある話。こいつよくやれるんだし、僕も指導者としてはあると思います。前向きな、お前泳ぎたいな、泳がせてやろう。そこで今度でてくるのがその部分の安全の監督とか管理というところなんですけど。このへんについてはいかがでしょうか?)

まさにおっしゃるとおりのことだと思うのです。彼が 25m のところに座っていることに全く問題はない。全体の視野に入るところに、そこにいるわけですから、そこはまず基本です。全体を射程には入れないと。水のことに関しては。ここからだったら全体を見ることができる。ただ、ここは、フィードバック・ラインです。このラインを超えたときのフィードバックをどう考えるか。授業であるのは、教員を超えてこようというのがある。■■■■も■■■■のプールで言っていたことと関係しますが、例えば部活動でやってきた者が体育の指導案を書きます。指導案書いてください、あるいは授業をやるときに、率先して出てくるけれども、実は体育は違うのです。指導を受けないと彼らは昔やっていた部活動と同じイメージでやることがある。部活動と体育は性質が違うので、そういう風なところでよく指導をします。あるいは、シュートの打ち方はわかっているかもしれないけど、きちんとした調べ学習をして、体育科としての指導法を考えないといけない。「君が部活動をやってきたことに関して、それは正しいことかもしれないけれども、そういうところでやっているのは体育じゃないよ」とか。それを言わないといけないことがある。あるのですよ。「部活動でこれだけやってきたから、俺はやれるのだ」と。これは違うので。

(ただある話ですよ。)

あります。今、他の大学に非常勤でいっているのですけど、私の専門の授業でも、例えばラケットの使い方であるとかです。正しい使い方を指導するときとか、その子らも実はそれやってきていない。だけど「私は打てるし、これでかまわない」って言って、「私はやる」って言ってやりますし。でもそこは止めないといけない。授業には規律があり、授業規律がおかしくなると、壊れます。そこは「お前勝手なことをしないでくれ、やりたい気持ちはわかるけど、違うのじゃないか」ということは言います。

(それが 1 つの先生の価値観ということですよ。)

価値観もそうですが、そうになっていきます。

(先程のお話と同様。共有化している部分ではない。)

そうですね。

○当日の事故については、いつどのような状況で把握されたのでしょうか。把握された後、どのような対応をされたのでしょうか。

把握したのは、私は■■■■があって、私の発表は終わっていたように思います。この時も教採対策のため、■■■■を受験する養護教諭志望者の指導案を添削していました。3、4 人位、直接学生から指導案を見てくれということで、ホテルで缶詰状態になってやっていた。そのときに■■■■先生から着信を得たのです (メールであったか、携帯であったかは不明)。その当時は夏に■■■■で実習をやっていて、それに関する打合せのことで、連絡を頂いた。私から折り返したら、全然違う話になっていて。丁度、その日は帰る日で、慌てて帰りました。■■■■には夕方、晩です。第一回目の対策本部の

会議に出席した。そのメンバーに入ってくれと■■■先生からのメール、電話やったかな。その時の会話は短めで、第1回目の対策本部の会議で詳しく話すということでした。それが最初です。

(その後の対応ということであると、恐らく次の日に■■■先生とお話しされたと言うことなんすけども)

それぞれの人を攻撃する形で私は言いたくない。事実として、翌日の土曜日は、前期末の卒業生の卒業論文の試問日であり、彼に副査をお願いしていた。論文は、主査と副査がおり、最終的な成績を出す。その日だったのです。私は前の日にそんなことがあったので、大丈夫かと思っていた。来られたのです。試問は3限目だったと思います。

(■■■先生が来られた?)

来られないことも考えていたのですが、こっちからメールして、「どうですか」とかいうわけにもいかない。黙った上で3限目に来てもらった。ちょっと早く来られたのですね。ちょっと、顔が青ざめていたように思いました。「昨日、こういうことを聞いたのですが、どういうことですか?」って聞いたのかな。試問が終わってからも話を聞いたのですが、そこではしっかり話を聞いたのかな。大分動揺されていた。寺岡君が長い潜水をずっと繰り返していたとか。度々よく潜水はして、前兆のようなものはあったみたいなことは言っていた。

(50m プールですか?)

25m プールの時に、ということです。何回も潜ってはチャレンジしていて、「お前すごいなあ」とか言われて、やっていた。あとその日遅刻してきたということ。本人は朝まで起きていたらしい、ということ話を話していましたね。あと、ポカリスエットをがぶ飲みしていた。しょっちゅう飲んでたということ聞いた。私は、仕事仲間として聞いていた。前の日に事故の会議もありましたし。あまり色々聞くのもどうかと思ったのですが、何があったのかということ聞いておきたかった。

(その後、何回か■■■先生とはお話しをされているタイミングはありますか?)

事故のことについてあんまり触れられないです。本人もそれ以降は。私からはたまには触れますよ。たまには。どうなっているの?という感じで。普通は聞きます。どういう風になっているのか?とやるのが、普通の仕事仲間です。ビデオのことが話題になったときも、ちょっと動揺していたと思ったし声をかけた。

(動揺していた。)

動揺していた。でも普段はよくわからない。よくわからないから、結構こっちもきつくあたってしまうことがある。

(事故当時、担当されていた■■■先生。まだ寺岡くん自体は亡くなられてない。意識喪失して、まあ人工蘇生など行われて病院に入院加療中ということすけど。そのへんでの認識としては、今でこそ死亡事故なんですけど、実際、その現場について、当時先生は、どういう風に捉えていたんでしょうね。)

それはもう毎日ヒヤヒヤしていた。

(命に関わる重大案件という認識はある。)

あった。前のような姿で居られることは難しいかもしれないというふうにも感じていた。

(それはご自身の発言。)

あの時、病院に誰が付き添うとか、そういうスケジュールも事務の方でも大分やられていて。それで、■■■に対してどう配慮すべきということは、会議の中でもやられていた。逐次彼の様子が入り、その話を通じて彼の様子は共有されていた。

(十分命の危険性もあるような重大な状況であるという認識はあるという。)

ありました。その時しょっちゅう会議があつて、状況確認していましたから。事務の方から、いろんな人がおつて、どんな形で体制を組むか。■■■に対してもそうだし、こういうことは慎重とか、■■■先生もおっしゃっていたし、その中でやっていました。私が思っているのは、個人で病院に行ったりということは出来なかったということは実際あつて。

でも■■■先生の話を知っていると、そういうものかと思っておりました。ご両親の遣うエネルギーであるとか、そういうことを考えるとそういう形で分担して、ということです。

○同行していた当時の学生に、何らかの関与をしていたのですか？

ないですね。1 人だけ、D 君が一回研究室に来た。

■■■しゃべったことがないのに。

(本人も事故の話はしなかった？)

しない。その頃色々、なんか言っていた時期だと思うのです。D 君は、前日泊まっていた所だったから、どういう風に過ごしていたのかということを多分事故当初に■■■先生あたりに、■■■先生が聞いたと思う。

(結構早いタイミングで聞いてますね。)

事故後、早いタイミングで聞いています。■■■先生から話を聞いていたので、確認してほしいと言いましたね。確かね。前日、どういう風に過ごしていたのかということ。水泳できるようなコンディションだったのか。■■■先生から、朝まで起きておったということを聞いたときに思った。確認をするときに■■■先生が彼に声をかけたと思う。その時は朝まで起きていて、飲酒はしていないとのことを言ったと聞いている。事故の当時のメンバーに関わったのは、彼だけです。

(具体的な事故の話はしていないですね。)

していない。

○■■■先生に対しては、事故前事故後に何らかのコンタクトがあったと言うことですね。

そうですね。事故後ですね。その土曜日です。第 1 回目の会議の翌日。

○新たな質問ですが、教育学部の検討チームの報告書の作成に対して■■■先生と■■■先生が、やりとりをされていたという事なんですけれども、具体的な内容は知っておられますか？

質問をみてから、この質問がなんのことかとよく考えてみたのです。検証チームの報告書は、3 人で作っているのですが、最終確認は■■■先生から■■■先生にお願いされた。この経緯がわかっていたので、こういうことかと思ったのです。だから予想の話になるかもしれないけれども。事実としては、検証チームの報告の趣旨は、事実を客観的に押さえて今後こういう風にしていこうという対策を込めたものにしていくことにあった。■■■もその時に■■■先生も入ってもらって共同でやってほしいという思いであったというのは聞いているのです。誰が犯人かという話でやらないでくださいという■■■の話は私は■■■先生から聞いていましたし、だから客観的な報告書をどう作っていくか。時間が経ったら、もう出来ないのです。記憶が変わるので。だからそこをきちんと何があったという事実を押さえて、今後やるときにはどういう風な対策をしていけば良いのかということです。それについて多角的にやりました。そこの中で大分議論もしたし、言い合いにもなりかけたし。そうやってやりながら、やったのですけども最後に（寺岡さんを想い）少し感情がある文章を■■■先生が書かれたことがあり、先生ご自身が 2 人に「良いか」と質問されました。私はそれをする客観性を損なうと思うので反対しました。3 人のところで。

(それは会議の中で、ご意見として。)

言ったけれども、それはってなり、報告書はそのままになっていると思います。それで、メールで報告書を回覧されたら、■■■先生も私と同じことを思っただけのように思います。

(報告書として適切な内容なのかって)

■■■先生はこれが検証チームの総意と返信され、報告書に何も変わりはありません。そういうところのやりとりのこと

を指しての質問だと思っています。

(検討チームの報告書の内容について、誰かの指示を受けましたか)

基本的には、指示というか、それは行き過ぎではとか私も結構言いながら作成したと思います。

(この検討チームの報告書を作成するのにあたって、だいたいおおよそ何時間、何回くらい)

相当やりました。もうかなり。3人でかなりやりました。メールでも、文章の表現とか、赤入れて返して、ということをやった。専門的なところは、ここはこういうことだと整理し、とにかく客観性をどう持たすかで精一杯でした。

(三人の中に開催回数とか、開催時間とか、そういう残っている可能性はあるのでしょうか。)

メールで確認して、どんな感じになるかなということですね。ただメールというのも、今からどれくらいというのは分かりません。メールに関係なく、結構集まっていたので。

(今おわかりでなければ結構です。ただ、まあ状況、必要に応じては検証する可能性は無くはない。材料はあるということですね。)

そうです。

(この教育学部の検討チームの報告書作成については、3人の方のニュアンスとか、感情論的な部分とか、中立公正性の問題とか、色々あったとお聞きしましたけど。いわゆる大学本体からの外圧とか。)

いや、ないです。

(ないですよ。わかりました。)

私は、もうとにかく専門的な立場として。これも難しいのです。自分の学生のことですからね。なかなか客観性を持たすというのは。でも私の立場はそこになると心にかけていた。

(大切なことなので、くり返しますが、大学のなにかいずれの他の機関、上部団体、上部組織などから、何らかの制御とか、誘導とか、指導はなかった。)

まったく。そういう話もしません。

○前回事前にお渡ししたうちの報告書、最初のもので第2報、その検討チームの報告書をフォローした第3報と、その3つが今のところ正式なものとなっているんですけども、その報告書読んで、お考えになったこととか、不備な点とかについてコメントありますか。

3報に、我々の検討チームのものがありません。基本的にはこういう形で反映されたのだと私は認めましたけど。

(何か欠落しているとか。これ抜けているとか。)

欠落ですか？対策には際限がないです。聞かれると色々あるのかもしれない。ただその当時のその記憶の中で、やっている。検討報告書を作ったため、まだ記憶がリアルにあるのです。私の中では精一杯とは思っています。あくまでも、どういう風な形で、どういう経緯でこういう事故が起こったのかということが大事だと思う。私はそれに関して意識を向けていたつもりです。それに関しては、ちゃんとなっていると思っています。

○事故から3年以上経過しているというところで、寺岡頑希さんに対して思うこと。今となって思うことがあれば、少しお話しいただければ。

沢山のと言えないのですが、無駄にしたらかんということではないでしょうか。それにつきます。実際にそういう形で、アクションをそれぞれの中でやっていくことなのかと思います。とても、残念なことですが。

(現時点において体育を担当される先生として、今後同様の事故が起きないためにどのようなことが今後は必要だと思われると思いますか？)

本当に、想像も出来ないところで色々な事が起こったりする。というのは、私、ヒヤリハットは、特に若い頃はよくあった。で、そこもなかったら、指導法も確立していけないということもある。私は体育系でできているので、「部活動のモデルで体育をするな」という学生に対する先の発言も自分に言い聞かせているというのもありましてね。もっと子供らの視点に立つこと。学生に言いながら、自分にもいつも言い聞かせながらやっている所です。授業研究であるとか、研究授業であるとか、そういうことも重要でないかと思っています。学内で。

(こういうことについての研究?)

授業研究というのは、毎年・毎学期、学内でもやっているのです。だけど、体育科として独自にはやっていない。ただ今回のことがあって、結構私、根掘り葉掘り、人の授業について聞くようになっていきます。学生にも、他の先生がどういう授業やっているのかとか聞くようになっていきます。失礼かもしれませんが、他、どういう条件で事故が起こるのかということ結構冷静に考えるようになり、そういうところを学生にどう伝えるかというところなんです。この事故について直接触れることはしないですけども。けれどもそれを言うようにしていますね。たとえば授業を作るときに、まず安全に、そこをまずどうするのかとか、かなり学生に言うようになっていきます。スキー、ボードもそうですが、この事故以降、前よりも以上に厳しくやっています。うん、大分厳しくやっていますね。報告書を書きましたが、自分でもこういうところが至ってないと気づくこともありましたし。私らは対策に関する報告書で言った以上、有言実行でやらないと駄目です。

(何か重要な事項でお伝え頂いた方がいい事があれば、ご確認願えますか。)

何 m で立てとか、こういうルールでやるということを事前のところで言っていることを伝えるようにするために、指導者というのは、鏡にならないといけない。だからその事前の指導と最中の指導、終わってからの評価であるとか、これが1つの授業のサイクルなので、そこはやっぱりしっかりやっていくことだと思っている。事前の打合せであったりとかで、どういう風な能力のある学生なのかとか、そういうところしっかり踏まえた上でやっていく。これはもうなかなか際限がないことなのですね。いくら努力しても、事故が起きてしまうことも。難しいのはそこなのですね。けども、そうならないように努力するほかないです。教員によって指導した事項、途中でもきちんと振り返って、やらないといけないし、うまくいくように指導しなければならないし、そういうところを徹底していく事が、大事だということです。

以上

内部調査

日時 : 令和元年 10 月 31 日 (木) 10:00~10:55
対象者 : ■■■教授 (教育学部教員 女子水泳実習指導担当 検討チーム構成員)
調査担当 : ■■■法人事務局長、■■■教育推進部部長
立会い者 : ■■■氏 (水泳実習安全管理担当顧問)

聴き取り内容 :

○平成 26 年度から本件に先生も関与するようになっていますが、そのいきさつや状況を記憶されていますか？先生の関与に関し、どなたから指示等はあったのでしょうか。

2014 年 2 月にスポーツ実習の冬季のトライアルが行なわれました。それに私が行くようになりました。詳しいいきさつ

は申し訳ないですが憶えていません。■■■先生と「私も若いころスキーしてました」と話をしたのは憶えています。当時の体育科教員は男性二人でしたので、「じゃあ■■■行くか」みたいな話になったのだろうと拝察します。その時に今まで私は■■■とか専門の科目しか持っていなかったのですが、その時に責任を出せるというのは変ですけども、私も持つという意識もありましたし、■■■として担当科目が入りました。それは私としての大きなきっかけで、たとえば私は小さいころからピアノもやっていて、今でもある程度は弾けますが、だからといって、ピアノ演習やりますというつもりは毛頭ございません。同じように■■■の担当にならなければ、自分から水泳しますよということはまずなかったと思います。そういう意味では■■■の方が先に始まって、トライアルがあって、■■■の担当になったのはひとつのきっかけでした。一方、教員採用試験の対策講座として面接の練習は今までもその後もたくさんやっていました。その中で学生からは、女子学生から特になんですが、生理になったらどうしようとか、水着どんな方がいいですかと言って、さすがにその話を■■■先生、■■■先生に聞きなさいとは言えなかったもので、こういう時はこうしたほうがいいよ、私は水泳部やったけれど、その時はタンポンいれてねとか、そんな話をやっていました。その中で男性の先生に聞きにくいというのもあるのと、■■■先生に対して、女子学生からは、ちゃんづけで呼ばれると、私だったら■■■とか、そういうふうに呼ばれるのがあまりうれしくないのと、スキンシップが多いんですよということを持ちほらは聞いてたんです。言わなあかんレベル？いやそうでもないんですけど。あーうーん…という感じだったので。その頃から、女子学生は■■■先生にご指導受けたいと思う気持ちはあまりないんだというのは個人的には思っていました。その中でじゃあ何がきっかけだったのかというのは思い出せないんですけど、メールの記録を見ると、■■■先生や■■■さんと女子の面倒を見ましょうかという話になりました。それは両方のタイミングがあったからなんじゃないかなと思います。学生の方からも、■■■先生にみてもらえるんやったら有難いわという感じがあったようには記憶しています。

(ご自身で手伝いますというニュアンスがあって、そのあと学科長等とのやり取りがあって、始められたということですね)

誰かから何かやりなさいと言われたものではありません。

○最初、この実習を担当される際、実習の内容や安全管理等について何らかの指示や確認はあったのでしょうか。

指示というのは、言葉通りに取れば、誰かから何かをしなさいというのはありませんでした。

(確認とかどんなふうにするんですかとか)

やるんですかと聞かれる前に、私はこんな風にしたいと思いますがというのは■■■先生へのメールとして残っていると思います。女子だけ集めて、人数決めて、ここのプールでやりますと。最初は■■■の予定でしたので、私はその時、今もですが■■■の会員なので、ビジターのチケットが安く手に入ります。そういうのもあって予算はこのくらいです。こういうものを使えば学生も入れます。監視の目もあります。■■■で用意しているトレーニングの時間がありますので使えますというのとはお話ししました。

平成 28 年度の実施に関し、先生としてはどのような準備や関係者との連携をとられたのでしょうか。

3 年目になっていましたのでだいたい■■■さんとの間で、流れは決まっていました。私の空き時間を■■■さんにお伝えして、面接と一緒に感じで枠を入れてもらって、■■■さんの方から数日前にだれだれさんが来ます。顔写真ももらってる。あとは当日という感じでした。

(先生が主体的に組み立てをしていたのですか。)

はい、特にもらいなさいといわれたからではなく、自分自身で水泳は一つ間違えればというのは私自身も水泳部だったのでよくわかっていますので、何らかのときに「あれ？うちの学生かな？」というわけにはいかないもので、そういうために

ももらってました。

○実際に実施するにあたり、気を付けていたことや意識していたことはありますか？

私自身は3歳くらいから泳いでたので、泳げない記憶がないんです。ということは反対に、泳げない学生をどうやって泳がせるかについては、別の事が必要だと思っていたので、大学生の時にコーチのアルバイトをしていた古い記憶と、■■■■に私自身も通っていらしたので、トレーニングの時間に入ってまして、■■■■のコーチには話をして、自分はこういう者ですと、泳げない子を泳がせる仕事があるんですがどうしたらいいですかね、みたいなことをご相談してました。そういう意味では準備は自分の中ではある程度やってきたつもりです。

(水泳の指導法とか、指導要領について、準備をなさってたと思うんですが、先生ご承知の危険というか、安全管理という点については、この授業担当するにあたって、どのようなことをお考えになったんでしょうか)

私の落ち度のひとつだと思っているんですが、改めて文部科学省の指針を見たことは残念ながらありません。経験則に留まっていました。ただ、必ず一緒にプールに入っていたのは事実です。というのは、私が行っていたプールは監視員がいたので、水の中の方が何かあった時の察知がしやすいだろうということと、スイミングのトレーニングでもよくあるんですが、泳いでいる間は必ずコーチが泳いでいる人を見ている。もしくは周りの人が見ているという状況を作っていたので、事故が起らなかったのはラッキーだったのかもしれませんが、できるだけ減らすようには努力はしていました。グループの中で一番泳ぎが苦手な子が泳ぐときには、後ろを伴泳していたので、万が一何かあった時にはすぐ助けられる位置には場所をとっていたつもりです。

(今のご発言の中で、先生自身が見守られていたのとあわせて誰かが見ているという仕組み。それは具体的には…)

2種類あって、具体的に行なったのは■■■■のプールと、■■■■。どちらにしても、複数の監視体制があるのは知っていましたし、これは恥ずかしいところでもあるんですが、あんまり大勢で来ないでくださいと怒られたこともあります。ということは、それだけきっちりみられてるなということは正直思っています。上から見る目はそれがあると。あとは、グループでやっていたので自分が泳ぐ以外の人たちはその人たちの泳ぎを見て、あとで、こういう子供にはどうやって指導したらいいかとみんなで考えようということも言っていたのでみんなでばちゃばちゃ泳ぐことはなかったです。

(みんなで見る体制づくりをされてたんですね)

そうです。

○個別の取組みについての実対応や安全管理に関しては、それぞれの実施者にゆだねられている状況であったと考えて良いでしょうか。

はい。それはそのとおりだと思います。ただ、私がどこまでできていたかはわかりませんが、教員の常識の範疇の中でそれくらいはやって当然だろうと思っていましたし、もし■■■■が事故を起こしてお前は足りなかったと言われたらそうかもしれませんが、自分でまかされたと理解して自分でやっていました。

○実態として運営の詳細な計画や安全対策については、どこで検討、具体化すべき内容と考えられるでしょうか。

内容とリスク管理はまったく別だと考えています。内容は教員ですので専門家に任されるべきだと思っています。ただ、今回■■■■先生に対して私があまりミーティングをもてなかった理由のひとつは、相手は専門家だからだと正直は遠慮していました。その頃もちろはらと■■■■先生の内容は厳しい、男子は遊びに行っているとはちろはらとは聞こえていましたが噂レベルです。だからと言って■■■■先生になんで遊んでるんですかという訳にもいかないの、唯一言ったのは、プールの場所がそれまでもトラブルを起こしていた。これは事実として知っていましたので、先生がプールの場所に困っている

のはうちにプールがないので仕方ないので、それこそ■■■■■といういいところがありますよ。ということは進言申し上げたつもりですが、「僕行ったことないねん」で終わらされたので、これ以上無理だなと思って言わなかったことを後悔してます。■■■■■があるのは知っていましたし、行ったことはなかったんですけど、夏にしか開かないプールが、ごちゃごちゃ子どもが多いのはわかりきったことで、行ったから講座ができませんでした、最初の1回は許されるとしても、2回目からはあり得ないだろうとは理解しています。

(安全対策について、ご意見とか考えがあれば)

既に学園として対応されているのでその通りだと思うんですが、■■■■■にしても、新入生の■■■■■にしても、何らかの学生を伴って出ていくことについては、こういう危険があるというのは、全く別の視点から、他大学ではリスク管理の教員もいるとは聞いていますので、別の次元の話ではないかと感じています。

(指導内容とリスク管理は別ではないかの事例をあげられたと思うんですが、どのような形が理想、あるべき姿とお考えですか)

今すでにそういう体制にある程度なってるかとは思いますが、実施企画書を出して、横から専門家のような方が、これは休憩が足りないんじゃないかなとか、長すぎるんじゃないかなとか、ひとりで大丈夫なのかだとか、そういうチェックをする機能があればいいかなと思います。

(先生が組み立てられた指導の要領、泳いでいるところを先生も見守られ、待機している学生さんも泳法チェックをしながら、安全を管理できるということ、見るというのが成り立っているという仕組みを構築されていたと思います。男子の今回の事故案件についても、25mを設定して泳がすという点については似たような指導体系を取ってると思うんですね。スタートを待つ子も見守っている。先生も見えていて指導を加える。ところが事故が起きたのがより泳げる、今日のプログラム以上の能力を持った子がいて、その子たちが範囲を超えて自由裁量で泳ぐなんてことがあった。悪気でないことはよくわかります。もっと泳げるんだからな、泳がしてやろうかというよかれという配慮だと思うんです。そこで事故は起きてしまったんですね。そういったことを認めること。または認めるのであれば何か手当をしなければいけないようなこと。先生の授業ではそういったことがあるのか。もし仮にあったとしたら、先生としてはどのようなことが必要とお考えですか。)

タラレバの話なんですけど、■■■■■が厳しいという噂が立っているのと、普段の授業でも厳しいことは言ってるんです。私の事なので、泳げたのに来たなら「帰れ」と言われるだろうと学生は思ってると思います。あなた対象じゃないでしょ。それでも本人が来てしまっただけで、泳いでみたら泳げたわという場合はたいへい、■■■■■さんならお分かりいただけると思いますが、クロールの息継ぎが上手でなかったりとか、アップアップしながらいっているのでもうしたら楽になるよとか、話はしたことはあります。今回、寺岡君がどこまで泳げていたかというのは、現役で水泳やってたということだったらかなり泳げてたんだと拝察します。そのレベルの子がいたら、私と一緒に立場に。「お前泳ぐな」と。私と一緒にこの子にはどういう指導をしたらいいか一緒に考えようかと言ったと思います。少なくとも勝手に泳がすことはいけませんし、そもそも50mプールに行かないので、25を超えて泳ぐということはないんですけど、その時点で言葉悪いんですけど、引きずり出してポカッとやったかもしれません。そのくらい私はかなり怖かったと思います。

これが起こったからということではなくて私自身泳げない記憶がないということはかなり厳しい指導は受けてますし、ひとつ間違ったらたいへんなことになるんやぞというのは身に染みてわかっていたからかもしれません。

○本件に関し、教採・公務員対策室長や学科長から何らかの指示や確認はされていたのでしょうか。

指示と確認の言葉の意味を取りかねてるんで、広くかもしれませんが、少なくとも対策室からはこのメンバーが来ますということと、顔写真をもらいました。どの年度かは忘れたんですが、過去に1回だけ50メートルプールに行ってるん

です。それがその子が■■■■■を受験して 50m泳がなければいけない子だったというのを、そうじゃないと私知り得ないので、公務員対策室から情報をもらったのと、本人も「私 50m泳がないといけないんです。」とってたのは記憶してますので、連れて行ったのは全員なのですが一番最後に彼女だけ一番手前のコースを泳がせて、私は上からずっと歩いていたのと、その時プールの監視員も明らかに普段の泳ぎに来ている状況とは違うので気にしてたのは理解しています。

(対策室からそういった情報が出ていたことがあるんですね)

じゃないと、私が知り得る術がないです。本人に当日聞いたかもしれませんが。学生の名前は覚えています。

○当日の事故については、いつどのような状況で把握されたのでしょうか。

あの年度からスケジュール帳を捨てられずにいるというのを前にお話したかもしれませんが、あの日は3限、4限、6限が授業でしたので、12時台に車で大学に向かっていました。■■■■■先生から電話が入って、ブルートゥースなので運転しながらでも聞こえるんですが、かなり緊迫した声で、「来たらすぐ学科長室に来てください」と。それ以上聞こうかなとも思ったんですけど、その様子が普段とは違うと、3限授業があっても来なさいというのはたぶんそういうことなんだろうなと思いました。その後すぐ学科長の部屋に行きました。こういうことがありましたという事実の報告と、女子の対策講座はとりあえず中止ということで、その時点で予定はいくつか入っていたはずなんですけど全部中止になりました。あと、いつそれを私が知ったかは覚えていないのですが、すでに事務職員の方が病院にいったというのも割と早いうちで知っていましたので私ができることはないなと思いました。行ったところで何もできないので、3限、4限、6限と授業があるので、それをこなすのが自分の本分だろうと。

○同行学生等について、何らかの関与をされたことはありますか？

当時、私は2年生で教員免許に必修の科目を担当していますので、すべての学生において2年生の時に授業は持っていました。ただ、すべての学生をマンツーマンで憶えているわけではないので、当時の記憶で顔と名前が一致するのはおそらく4人くらいですね。そのうちの一人が寺岡さんだったのは間違いないです。

(それ以降では？)

そのうちのひとりのFさんについては、■■■■■本件について、一度だけなぜそういう質問をしたのかも覚えてないんですが、寺岡君の件を一度だけ持ち出したことがあります。■■■■■プールで初めて会ったと言っていました。おそらく■■■■■と■■■■■なんでクラスが違うんです。クラスが違うと何かないと知り合いではないのでそういうことを言っていました。もうひとり、D君が■■■■■、彼についてはこの件で何もしゃべったことはありません。

○■■■■■先生に対し、事故前、事故後に何らかのコンタクトはとられていますか？

当時私は■■■■■をしていまして、■■■■■先生も■■■■■でしたので、事務的なやりとりというのは毎年のごとく行っていました。本件があってから■■■■■先生が■■■■■。このことは上からの指示なので、私は誰か入るのかと思ったらそうではなく、■■■■■先生の■■■■■割り振ったりはしました。

(同じ教採水泳指導のご担当としてのコンタクトはなかった？)

事故後は、ないです。対策チームの報告書を作るにあたり、■■■■■先生と一度聞き取りをしようということで、ミーティングの場に来られたことはありますが、それ以外の場所で本件をマンツーマンでしゃべったことはありません。それは意識的に避けていました。

私は[]先生に対しては指示とかの関係にないことがまずひとつ、口を開ければ文句しかでないのと、「何やっとなお前」とこのことしか出ないので、マンツーマンでは絶対喋れないと思ってました。正直な気持ちです。

はい、

■ ゲストの二人とは終わってか

そうですね。

(受け入れてもらえなかったということですね)

そうですね。今となってはものすごく後悔しています。

（ビジター体験のところで本来の目的とは違う使用方法をしたために注意を受けたというのはスポーツクラブのプールですか？）

はい。■■■■■だと思います。おそらく何か記録をとっておられて2回目というのがわかって、「トラブルで、私たち結局その日できひんかってん。」と聞いた記憶があります。ちなみに■■■■■はそういうことはOKというのは、自分は会員なので確認してますので。

（教採は2014年からお引き受けになられたという発言がありましたけど、■■■■■先生はこの事故当時で何回目の経験だったんですか？毎年繰り返したった？）

はい。

（■■■■■先生は■■■■■先生より後に実習を担当された？）

先に■■■■■先生がされて女子が嫌だと言ったので、■■■■■先生がいつから始めたのかは私は存じ上げませんが、■■■■■先生の方が先のはずです。

（男子の実習は遊んでいるようなイメージがあるというのは、だいぶ前から聞こえていたことなんでしょうか？）

先んじて1年なので、学生は毎年変わるので、なんともあれですが、なんとなく先輩から後輩に。今となっては誰が言っていたかはわかりませんが。私の中のイメージとして「男子何やってるねん」というのと、女子だけでもなんとかできるかなと思ったのは事実です。

○事故後、検討チームに指名され報告書を作成頂きましたが、本件の問題点等に関しては、その報告書に表現されていると考えてよろしいでしょうか。記載内容以外のコメント等がありますか？

私は会社勤めの経験がないので、例えば会社員の方が、何かへまをした時は、本人も当然ですけど、上司も責任を取る、と私はそうに会社の組織を理解しています。おそらく大学の事務もそうなのではないかと拝察します。ただ教員が何かやった時に、どういう体制なのかとか、教員同士でそれ違うんじゃないか？と言える場というのはなかなかむづかしいなと思っています。私は、前職は研究をメインとする大学におりましたので、年齢構成でたいだい教授、准教授、と年寄りから若い者になっているので、教授の言うことはイエッサーで、私もそのようにしてきました。ただここに来ると、過去の経歴や、年齢と立場の差の逆転が起きているので、そこは私自身もきてからたいだい調整はしたつもりなんです。そういう意味では今回の■■■■■先生もたぶん逆転をしているはずなんです。ので、私専門家でもないしとか、若いしとか、これと言うとあとあとの人間関係もなにかいろいろと思って、言いたいこともあまり言っていない人のうちのひとりではありました。そういう意味では、たとえば学部長や学科長の責任というか、何かあった時にどうしたらいいとか、管理職手当というのはそのために付いているはずなので、もう少し立場を明確にしてほしいなと思います。それに対してどのような指導をされたのかまでは聞いていませんが、そういう教員が何かしてしまった場合、私もしてしまったことはありますし、それに対して報告をしてという体制があってもよかったのかなということが、書かれていないように思います。ここから外れるかわかりませんが、教員の立場、管理職の立場がもう少しあってもよかったのかという気がします。何をしたらどうなるというのは難しいところではありますが。

（その内容は検証チームの報告書を検討している時にご意見としては出されたんですか？）

いいえ。それは付度いたしました。言ったはずの学科長が目の前にいるので、私言いましたけど、あなた何もしてませんでしたよねって、さすがに言えないので。

○教育学部検討チーム報告書の作成に対し、■■■■■学部長と■■■■■（当時学科長）先生がやり取りをされていたとのことですが

が、具体的な内容を知っていますか。

この質問を見て初めて知りました。出したものと出てきたものが違うのでその中で何かがあったんだろうというのは理解はしますが、それについて何で違うんですかといったことはありません。付度の一部かもしれませんが、そういうことがあると学園の別の意思が、自分の思っている以上のことがあるんだろうなと思って黙ってしまうということです。

(出したものというのは検討チームの最初に出したものと、検討チームの報告書ですと言って出てきたものが違う？)

いいえ、検討チームの出したものと大学としての報告書、この間に違いがあるのでこの間に何かがあったんだろうなということと最終版と書いてあるということは、この間に何枚か作っていたわけで、そのたびごとに先生とかは「こうしましょう、ああしましょう」という結論だけがあったので、きっと対策チームでこういうことがあったから先生はこう変えましょうと言っているんだろうなということは拝察していました。

(大学でできたものと検討チームとの違いではなくて検討チームが作った報告書の作成の部分で、先生と先生がやりとりされていたこと、そこから生じたことについて何かご存知ですか？それは違和感を感じられなかったですか？)

違和感というか、何枚か作っている間にこうしましょう、ああしましょうという指示が変わったのは理解しています。それがなぜ変わったのかを問い詰めてはないので。

(それは検討チームの報告書の中で？)

はい。

(推測されたということで、その内容をどなたかとお話ししたことはない？)

全くないです。

○その他、検討チーム報告書の内容について、いつ、誰と、どのような話をしましたか。また、検証チーム報告書の内容について誰かの指示を受けましたか。

指示？難しいですね。先生からこう作りましょうという指示は当然ありました。それにともなって内容を思い出したりとか記述したりとか、体裁整えたりはやりました。

(目に見える外部の圧力とかは)

それはないです。少なくとも先生と先生とで作ってその他の第三者からこうしなさいと言われた記憶は私自身にはないです。他の方が言われて話を持っていったのかもしれませんがそれはわかりません。

(三人が作られたものが形になっていると理解してよろしいですか。先生が預かり知らないところでまとめられたものではない)

そんなことはないです。なぜならファイルは私自身が作っていますし。最終的には先生に任すといったところがありますが、自分の作ったファイルとこれを見て、むっちゃ違ってるんやんと思ったことはないです。語尾とかはあったかもしれません。

(水泳指導していた先生自身を先生と同じようにしかとれないような表現になってしまっていることについては非常に気になるということは聞いていたと思うんです。)

はい。

○本学の作成してきた報告書を読んでお考えになったことや、不備な点等について何かコメントはありますか？

個人をつるし上げるためのものでもないですし、私も間違いをしまし、それに対して事前に防げるものであれば防ぎたかったですし、起こってしまったことに対して、どのようにやっていくかはもう少し組織として、あってもよかったのかという気はします。知らなかったからできなかったというのものもあるかもしれませんが、私たちがその内容を出してな

かったからというのもあるかもしれません。ただ水泳に関して言えば、やったことはご存じだったはずですし、今までのいろんなことから〇〇先生に対してのイメージをお持ちだったのではないかと、少なくとも私の思っていることはお持ちだったのかもしれない。難しいですね。

先ほども言いましたが、1 学年 200 人くらいいるので、マンツーマンで覚えている学生は、ゼミ生以外には限られた学生なんです。トラブルを起こしたりとか、担当している実習で問題があったとか、そうではない学生で覚えている学生は稀とは言いませんが多くはないです。そのうちの一人が寺岡頑希君なんですね。なぜかという、この下に [REDACTED] というのがあるんですが、彼の所属していた [REDACTED] というサークルがあそこで必ず当時個人練習をしていたんです。私はよくそこを通過して研究室に行ってたんですけど、あそこのサークルって個人練習をしてたら教員が来ると、止まって、直立不動して「おはようございます」って挨拶するんです。それがいいかどうかはともかくとして、教員が来たことを理解して、ちゃんと挨拶をして、そういうサークルなんや、寺岡君もその中で来たら挨拶をしていたので理解をしてました。水泳部というのは知らなかったんですけど。ああ頑張ってるなと思ってずっと見ていた学生でした。3 年経って、私の中では 2 つ言えばよかったかなと思うことがあります。なぜ言わなかったのかという、そもそも対策チームのメンバーではないというのとそういうルートがなかったというのがあります。何を思ったかというひとつは実は前職でも学生を一人亡くしているんです。私の直接関与する研究室ではないんですけど、別の研究室が、学生だけで実習に行き、事故が起こって亡くなったというものでした。その時のもろもろは前職の方でいろいろありましたし、その時は学部葬、大学が大きかったので大学葬という形にはならないんですけど、学部葬という形でその時在籍していた教職員全員と、あと学生はもちろん任意ですけど。その時亡くなったのは学生同士のやりとりのなかで亡くなった痛ましいことだったんですが、事故にあいそうになったのを救おうとして、救おうとした学生が亡くなった。生き残った学生の方は本当にかわいそうなくらいでしたけども、でも来てたというのを見てるので、なんで今回学園葬をしなかったんだろうって思っています。二つ目はいろんな考え方があると思います。私は [REDACTED] を通るたびに、彼のことを思い出します。挨拶してたとか…。彼が成仏してないとかそういうことではなくて、私感じるんです。「あ、いるな」と思って。 [REDACTED] 通るときに「あつ、いるわ」と思う時があるんです。遊びに来てるんだなと思ってるんで。ある時、ある場所に行こうと思ったんですけど、行けなかったんです。彼が「行くな」と言ってるなと思って。「行くなといってるの？」と言いながら話をしつつ、「じゃあやっぱりやめとくわっ」て行かなかったことがあるんです。そのためにも、小さなものでも学園内にはモニュメントみたいなものがあるじゃないですか、別に寺岡頑希君の像という感じではなくて、何か小さなものでも置いて、みんな通るたびに「いたよね寺岡君」とか、できれば [REDACTED] の前に小さなものでも置いて学生を見守ってほしいなという気がします。それは今初めていいました。3 年経って学園としての立場とかスタンスとか先生のこととかいろいろあるのかもしれませんが、人としてそういうことはやりたいと思っていますし、もし私が退職することになれば、こういうことをしたい。畿央大学の組織を離れることがきまったらそういう話をしたいなと思います。

内部調査

日時 : 令和元年 10 月 31 日 (木) 11:00～11:40
対象者 : ■■■ 学科長 (現在の学科長)
調査担当 : ■■■ 法人事務局長、■■■ 教育推進部長
立会い者 : ■■■ 氏 (水泳実習安全管理担当顧問)

聴き取り内容 :

○平成 21 年度よりこの実習が始まりましたが、当時のセンター長として開始のいきさつ等について記憶されていることはありますか？教採・公務員対策室の前身である「教職支援センター」時代のことです。

最初の頃はとにかくなかなか泳げない学生がいたのでその子を何とかするために水泳部の学生が前例としてそういうこととしてもらっていたのでしてもらってはどうかということでスタートしたようなところですね。大学として何かできないかという話がありましたが■■■は大学と関係があるということで検討されたんです。あと■■■もできないかなということでしたが■■■は行って断られたという形です。誰が行ったか分からないが断られてそのような形です。学生の誰が■■■に行ったかというのもつかめなかったようです。教職支援センターの時代です。私はこの時の教職支援センターの時のセンター長なので教採公務員対策室ではない、室長ではないですね。

○当初の状況は、学生まかせで本学としての関与はほとんどなかったようですね。

はい。そうですね。

(学生の主体的な行動なんですね。)

そうですね。そういうことです。紙があつてするのでなくて誰か水泳部の知り合いいないのとか、声かけてみたらという感じのいわゆる立ち話的な形というかそんな感じでスタートしたような形ですね。

○平成 25 年度から本件に教員が関与するようになっていますが、そのいきさつや状況を記憶されていますか？教員の関与に関し、どなたかの指示等はあったのでしょうか。

わからないんです、知らないというか、行っていたというんだということを知ったような感じですね。

○この実習だけでなく、教採対策のプランについては「教採・公務員対策室運営委員会」において審議されていると考えますが、当該委員会の持ち方や審議の方法等についてはどのようなものになっているのでしょうか。

時期時期に応じて決まった時期はないですが課題とか改善とかを話し合うことをやっています。まあ案外いろんなことを提案があったことを色々と議論するというのか、意見交換はかなり積極的に行っています。

(この中で学生の安全とか事故防止というのはなかなか上がりにくいテーマなんですかね。)

なかったですね。

(ピアノとか色々な話を聞いていますけど危険を想定するようなことはなかったということですね。)

なかったという形ですね。水泳についてもそこまでは確かに考えてなかった。

(特段取りざたされることはなかったということですね。)

そうですね。

(ちなみに外から見ると新進気鋭の大学が大きな就職実績を上げているということで並々ならない工夫努力があったと

思うが、教採用の水泳実習というのは他の大学であるとかないとか模範にしたとかしないとか他の事例は調べられたのか。)

ないと思います。誰かが調べてくれていたらわかりませんが、何よりもこれまでも水泳部の子が好意で教えてくれていたということがあったのでその引き継ぎのような形をとっていました。

(25年に先生、教員が直接関与するようになったとしても大学としての戦略的な意味とかがあったわけでは・・・)

ないと思うんです。うちの流れとして学部教員も積極的にかかわってみんなで教採に向けて頑張ろうというのがあるので自然な形はあったのかなと思います。

○平成28年度の教採対策のプランを審議承認された委員会は、平成28年3月10日開催の「平成27年度第4回教採・公務員対策室運営委員会」ですが、その際の審議等について記憶されていることはありますか。

特にないですね。

(年間のプラン一覧表が資料として残っており、議事録には前年度からの変更点のみの確認で、計画は承認されていますが。)

どちらかといえばウイークポイントのところの審議はしっかりやるという感じでしたね。前年度の学生たちの成績なんかも出てきますし、討論についての得点が低かったので討論の体制をどうしようという話があったのでそれから考えたら水泳に関することはかなり低かったので今まで実技に関しては出たことはなかった。

(安全管理面どころか内容についても)

特にうちの学生が弱いとか課題なんだということは今までは実技に関してはそんなに出たことがないので、水泳についても特にはなかったですね。

(水泳実習とは書いてあるけど)

そのうちのひとつとしてやっていただいているという感じですね。マットの指導もするしピアノの指導もしますからそれと同じレベルの中で特に水泳についてどうですかという話はなかった

(決裁にしても全体に対して決裁はおりたとしても1水泳事業に対して入れるとか入れないというのではないということですよね。)

はい、一括で

(決裁者は誰ですか委員会のメンバーの合意ですか)

そうですね。

(決裁というのは合意ということですね。)

はいそうです。

(誰か役職の方の決裁ということではないですね。)

はい、合意ですね。その方向でいきましょうかということです。だから文書に押印してとかではなくみんなで協議してということです。

○教採・公務員対策室運営委員会としては、全体的な運営についての審議を行い、個別の取組み等の内容について詰めて審議するものではないということでしょうか。

そうですね。

○個別の取組みについての実対応や安全管理に関しては、それぞれの実施者にゆだねられている状況であったと考えて良いでしょうか。

そういうことですね。

○実態として運営の詳細な計画や安全対策については、どこで検討、具体化すべき内容と考えられるでしょうか。

運営委員会でしょうね。そこでやはりあとそれぞれが分野ごとのものをやっていますから運営委員会でしっかりと確認とか足りない部分はないかしとくことは必要でしょうね。あとは実習とかのようなものは大学として、今回これを受けての安全面についてのことが行われましたからその両方が必要になるのかなと思います。

(考えるべきことの項目に安全が入るということですね。お習字であってもピアノであっても行き帰りとか実務実習地に行くということはありますのでテーマとして入れとくべきでしょうね。)

ほとんどが学内で行われていますから水泳だけが確かに外なのでやはり特に必要なのかなと思います。

○当日の事故については、いつどのような状況で把握されたのでしょうか。把握された後、何か対応はされたのでしょうか。

次の日の授業でD君に聞いて知ったということです。

○前泊したDさんに、■■■■局長と聴き取りをされておられますが、報告書以外に気になった点等ありませんでしょうか。

どのように彼の状況というか、寺岡君がどう来て夜にどんなことがあって送っていったかということを話してもらった形ですね。彼はとにかくD君が僕の責任だということを言っていたので話してごらんということで話を聞いた。

(Dさんが言っていた責任というのは、行かせてしまったことですか。)

僕が止めればよかったとか、自分に何か足りないことはなかったのかというようなことだったと思う。心配をしていたのでとにかく状況をお話ししようという話で■■■■さんのところに行った。

(Dさんから事故の事を聞いて何か対応されたことはなかったのですか。)

ないです。

(それ以外の■■■■先生とか学生への対応は)

それは私はしていません

○本学の作成してきた報告書を読んでお考えになったことや、不備な点等について何かコメントはありますか？

見せていただいていたまだ整理がきちっといろんなところが入っているなという感じなので、まとめられてこれから整理がなされていくのかなという印象を持っています。

(先生のお立場から何か必要であろうという項目とか事項はありますかご提案は)

大学として学部として何をすることが大事なのかということがやっぱり、明確にしていくことがあればいいかなということです。

○再度の質問ですが、前泊したDさんに、事務局長と聴き取りをされておられますが、報告書以外に気になった点等ありませんでしょうか。飲酒はなかったということがイメージとしては強いのですが。

そうですね。その時にも彼はそうに言ってて、この前にもう一回聞いた時もなかったっていう話はしていたので。

(自分のせいだという意識を持っていた)

彼がですか。気にしていることは今もそうだなあとは思いますが。

(寺岡君を置いて自分が先に出かけて寺岡君が鍵を閉めて出かけたとか言うことは間違いであったと、私よりも先に寺岡

君が先に出て私は鍵を閉めて出たといったという当日の申述と、のちに事実の修正がご本人からありましたよね。）

はい。

（そういう点については先生の方もよくわかるというか、違和感や矛盾は感じてもらっちゃらないのですよね。）

そこはよくわかりません。どっちがホントなのかわからないのです。

（当時も真顔でお話されるし後からでもお話されているので。）

そうです。どっちだったんだろうなということなんだけれど本人に聞き取しても意味はないかなと思っていますけど違和感がないと言えちゃうそになり、あれ覚えてなかったのかなと思いますね。わからないです。

（お酒を飲んでないという部分で、これは固まってきているんです。医学的な見解も裏付けありますから、このままでいきたいんですけど、聞き取り調査した学生の何人かがあのふたりが集まっていたら飲んでるとか飲んでたとか複数証言があるんですよね。それは黙殺するわけに最終的にいなくなってくると思うんですよ。なんかそのへんについて先生何か個人的にお考えになることとかお感じになることはありますか。）

まず一つは寺岡君とD君と私はそれこそ一緒に飲んだことがないのでわからないんです。友達とかは一緒に飲んでるわけでしょ。だからあの子たちが好きなのかもわからない。今D君は[REDACTED]ですけど、[REDACTED] [REDACTED]そこでえらい彼が酔ったということもなかったので、彼の言ってることがホントなのかわからない。

（飲めない方ではない）

と思うんです。

（でも誰もわかんないところですよ）

少なくとも私は彼がどれだけ飲めるとか普段から飲酒をやる子なのかとかかわからないです。聞いてみようかなとか思ったり、ほんとにそうなんやということを言ってみようかとも思ったけど、言うことがどうなのかわからないので控えています。

（例えば思い込みなのか、勝手な噂話なのかでもいいんですよ。そういう発言が聞き取の場に出てきたのかよくよく調べてみたら思い込みだった、推測だったという結論でもいいんですよ。でもそれすらいじってないとちょっとなんかこう意図があってスルーしたとかってことになっちゃうんで、その辺はどうにかしておきたいなという思いでお聞きした次第です。）

D君があの人に自分がちゃんとしとけばよかったという意味で言っているけど、その中に飲ませなかったらよかったとか、そんな話は出たことはないです。少なくとも事実としては、D君が最初に慌てて言ってきたとき、終わった後にすごく心配そうに言ってた時にはお酒の話は1つもなかったことは事実なんです。

○本件事故に関する調査方針の決定や調査報告書の作成、対応ポリシーについて、「水泳事故対策本部」と「理事長室会議」の役割や位置づけについて、どのように認識していますか（引継ぎを受けましたか）。各種対応に関する意思決定や判断・指示、必要情報の共有は、どのように行われてきましたか。また、学科長として今後はどのように対応していくべきであると考えていますか。

大学の危機管理規則に基づいて対策本部が作られたこととか、報告書を見て認識しているようなところですよ。

（引継ぎというのは、おそらく前学科長からということかと思いますが何らかの引継ぎというのはあったんですか。）

それまでから経過も聞いてますし、また今も居てくれますからその都度聞きながらやっています。対策本部の方にも出てやっています。引継ぎながらやっていると思います。

（各種対応に関する意思決定や判断・指示、必要情報の共有は、どのように行われてきましたか。）

対策本部で理事長室会議の結果は教えてもらっているのですが、理事長室会議には出ていませんが、聞きながらやっているという感じですかね。■■■先生からはその辺のところも、学部のことも含めてこの件についても話していますから共有しています。三人で集まることもありますので。今回の DVD のことであったり、夏の講座であったりそういったことも集まりながらやっていますので。

(また、学科長として今後はどのように対応していくべきであると考えていますか。)

学部としてできることをしっかりとやらなければいけないので、学部長と連携をとりながらやっていることです。

○事故から3年以上が経過した今、亡くなった畿央大学生 寺岡頑希さんに対して思うことを話してください。

彼にとっても悔しかったことであると思うし、ご家族の思いというのはそれははかり知れないものがあると思うので、できるだけとにかく我々ができることすべきことをしっかりやっていくことがつながっていくだろうし、安全を実現できている大学であるし、引き継いでいける大学であるってこと、みんなでやっていくことが大事だと思う。

(新たに学科長になられて、学科に所属する教員の方々に対して、今後共通に安全に対する意識とか対応とかいうものをお作りになるという点については何かお考えはありますか。)

大学として作っていくことが必要になってくると思いますからね。学部だけでやっていくものではないと思いますからみんなで作っていかうと思ってます。

(■■■先生の最近の言動動向に何か感じられたことはないですか)

いや、特に何も。いろんな行事があればきちんと来て対応してくれてると思いますし、■■■先生なりに考えながらやってくれているんだなと私は認識してますけどね。

以 上

内部調査

日時 : 令和元年 10 月 31 日 (木) 13:00~13:50

対象者 : ■■■教育学部長

調査担当 : ■■■法人事務局長、■■■大学事務局長

立会い者 : ■■■氏 (水泳実習安全管理担当顧問)

聴き取り内容 :

○本件実習の実施については、非常にあいまいな運営状況であったかと考えられますが、学部長としての本件に対する関与については、どのような立場と考えられていたのでしょうか。

事故のあった水泳実習の主な担当は「教採・公務員対策室」であり、自分の赴任前から存在していた。設置当初は今よりも学部教員との密接な関係があったかもしれないが、指揮命令系統の全く違う組織であり、学部長が直接指揮する権限は当時も今もない。教員は対策講座の講師を務めることはあるものの、手伝いをしている感覚が強い。個々の一教員に依頼されてそれぞれの判断で引き受けているのであり、それは「教採・公務員対策室」の側も同じ認識であるとする。あいまいな運営状況であったと認識している。教育学部会議には「教採・公務員対策室」から何人か参加していただきコミュニケーションは欠かさないようにしている。

○この実習だけでなく、教採対策のプランについては「教採・公務員対策室運営委員会」において審議されていると考えますが、当該委員会の持ち方や審議の方法等についてはどのようなものになっているのでしょうか。

先ほどの質問と関連するが「教採・公務員対策室運営委員会」の議長は学部長ではなく、自分は一教員としての参加になっている。組織としての学部の関与はほぼないと言ってよい。したがって委員会の持ち方、審議の方法については「教採・公務員対策室」の進め方を尊重している。また、会議の中では率直な意見の交換がなされているものと思っている。

○平成 28 年度の教採対策のプランを審議承認された委員会は、平成 28 年 3 月 10 日開催の「平成 27 年度第 4 回教採・公務員対策室運営委員会」ですが、その際の審議等について記憶されていることはありますか。年間のプラン一覧表が資料として残っており、議事録には前年度からの変更点のみの確認で、計画は承認されていますが。

当時の実際の資料を見返してみたが、前年度からの変更点を示しただけですべて承認されていた。2 時間という限られた時間で報告事項や資料が多く、審議する時間は限られていた。それぞれの講座の担当者についてまで審議された記録はない。自分の記憶でもその通りである。

(ここで言う承認というのは誰か決裁権のある者がいるのではなく参加者による承認ということですか。)

その通り。参加者による承認である。

○教採・公務員対策室運営委員会としては、全体的な運営についての審議を行い、個別の取組み等の内容について詰めて審議するものではないということでしょうか。

基本的に次年度の計画案について承認するということで、報告に近いものになっている。

(色々な承認事項、協議事項の中に安全管理や事故防止などが盛り込まれるというような背景、状況は難しかったですか。)

その通りで、そういうことが議論、審議されたことは自分が学部長として赴任してからは残念ながらなかったと思う。

(逆に言えばそういう必要にかられたことがなかったということですか。プールにおける水泳実習のような危険をはらむプログラムが他にはないということでしょうか。)

「教採・公務員対策室」の中でそういう認識があったかどうか自分にはわからないが、審議の中では話し合われたことはなかった。

○個別の取組みについての実対応や安全管理に関しては、それぞれの実施者にゆだねられている状況であったと考えて良いでしょうか。

その通りであったと思う。

○実態として運営の詳細な計画や安全対策については、どこで検討、具体化すべき内容と考えられるでしょうか。

個人的な意見も含むが、教採試験対策としての水泳講座中の安全対策については「教採・公務員対策室」が考え、学部としては特に小学校の教員をめざす学生のための安全な水泳実習の講座というものを作っていきたいと考えている。担当は分かれても安全という意味ではお互いの調整が必要になるものと思っている。目的は少し違うので、それぞれの組織を尊重しながら、安全面ということについてはしっかりと協議して、今後事故を起こさないと言う想いでやっていきたい。

○事故の発生した先生の先生の実習について、日程や参加状況等について事前に何らかのことを把握されていたということはあるのでしょうか。

残念がらなかった。■■■先生の実習だけでなく、個々の講座の実際に行われる日時や参加状況、先生の行動などが事前に学部長にあがってくるシステムにはなっていない。決裁印が必要なものでなければほとんど把握できないのが実情で、大学とはそうしたものであると認識している。

○当日の事故については、いつどのような状況で把握されたのでしょうか。

当日は出校日で大学にいたところ、たまたま、事務室に行ったところ、事務室内にいた■■■先生から話を聞かされた。そして事務室に詰めて事態の推移を見守った。夜には1回目の水泳事故対策本部会議に出席した。

(把握された後、どのような対応をされたのでしょうか。)

危機管理対応の経験があった■■■学科長に中心になって動いていただいて、その報告を逐一聞いて全体状況の把握に努めた。その後すぐに事故対策本部会議が設置されたので合流し、本部会議の一員として対応にあたった。

(当日についてはどのようなことを情報として把握されていましたか。)

記憶がさだかでないところがあるが、事務局が電話で様々な情報のやり取りをしているところに同席していたので、事務局からもたらされる情報を把握していたと思う。

○事故発生後、所属学部長として直接■■■先生本人から、いつ、どのような報告を受けましたか。

残念ながら直接話をしたのはだいぶ後になったからであったと記憶している。重大事故の対応として直後に直接話をすることは微妙な問題と考えていた。

(直接ではなかったとしたら、学科長等から聴き取りをしたという報告はあったか。)

学科長を通じて■■■先生への聴き取りを行ったことや本人が話しておられることの内容について報告は受けていた。

○事故の報告を受けた後、所属学部長として直接■■■先生本人に、どのような指示をしましたか。また、事故調査に関して、どのように関与・協力させてきましたか。

事故の当日すぐに対策本部会議の一員となり、また理事長室会議の一メンバーでもあるので、最初から会議の一員として対応していたということで、関与・協力について学部長として個人で動いたり指示をしたりすることはしなかった。

(学科長を通じての報告内容はどのようなものだったか覚えていますか。)

はっきりとは覚えていない。

(逆に学科長に対して何らかの指示を出されたような記憶はありますか。)

学科長についても微妙な立場であることで困っておられた。対応することで■■■先生が変わってしまうかもしれない、微妙な立場であるということを確認してどのように対応するのが良いかという相談をしながら進めたことは覚えている。

(指示をしたというよりも直接担当の学科長と協議をはかって対応、対策を考えたということですか。)

その通り。

○事故発生後、所属学部長として同行学生らと、いつ、どのような話をしましたか。

同行の学生と直接個別に話したことはない。関係学生のD君とは■■■一般的な話をした。D君はこの件について話づらそうだったので、つつこんでは聞いていない。

○同行学生らへの対応（調査協力や精神的ケア）について、どのように考えていますか。また、所属部長として、いつ、誰に、どのような指示をしてきましたか。

本学も含めて大学では通常、小・中学校のようにクラス単位で行動するわけではなく、ゼミ単位で行動するのが常なので、ゼミ担当教員が学生と密接な関係にあると思う。また、学部長が学部長の立場で学生に相對するというのは一部の例外を除いてほとんどない。とは言うものの、対策本部会議や担任から報告が上がってくる中で、学生に対して積極的に精神的なケアをしなければならないと深く考えるようになり、遅まきながら卒業生のサポートチームを学部として設置し、対応にあたってもらようよう指示した。チームは二つの会議とは相對的に自立して卒業生のケア中心に考えてもらうことを学部長自身がはっきりと指示した。

○事故後、教育学部検討チーム報告書の作成に対し、やり取りをされていましたが対応に関するコメント等がありますか？

○事故後、教育学部検討チーム報告書の作成に対し、やり取りをされていたとのことですが、具体的な内容を教えてください。いつ、誰と、どのような検討、判断、指示をしましたか。または、誰かの指示を受けましたか。

やり取りというのが何を意味するのかわかりにくいですが、素案が出た段階においてメンバーで検討したがそのことか。

(ここでいうやり取りは、検討チームの報告書についてご遺族に開示するか、開示するとすればその方法は、というようなやり取りがあったことと思いますが。)

最初の段階で、自分の仕事として素案の内容や表現について吹き出しのコメントをつけて検討チームのメンバーに見てもらった。やりとりと言えはこのことか。

(対策本部会議で議論する前ということですか。)

対策本部会議に出す前か、同時並行であったと思う。また、2018年7月10日には感想として「検証チームにおける報告書修正版を読んで」をまとめて理事長室会議ならびに対策本部会議に提出した。『検証』は大学の自浄力を発揮するために重要だと思っていたが、一方で監視カメラ映像を見ていない状況では危険なことでもあるので、極めて慎重に行うべきだと思っていた。

(「検証チームにおける報告書修正版を読んで」ということはやりとりであり、感想であるとともに、学部長としての指示、要望であったということですか。)

自分としては要望のつもりであった。

○本学の作成してきた報告書に関し、お考えになったことや、不備な点等について何かコメントはありますか？

現在は完成途上で完全に考えがまとまっているわけではない。作成する内側の人間なので第三者のような意見を今は言えない。

(今日実施している関係者からの再聴き取りが報告書に必要だと考えますか。)

もちろん重要だと考える。書き方も大事だと考えている。

(外部第三者の扱いについて難しいと感じておられることは、公正さとご遺族感情とのバランスとか。)

第三者について本人方は全員がそれぞれ正義と思っているだろうし、そのどれをとというのが難しいと感じる。

○本学の作成してきた報告書に関し、「事故原因の究明」についてはどのように考えていますか(「再発防止」との関連について・報告書に盛り込むことについて)。

一般的に原因究明と再発防止は表裏一体のものと考えられているし、原因究明なくして再発防止はありえないのはもっともだと思っている。ただ、原因を突き詰めるというのはとても難しい。教育は未来につながっていく仕事であり、大学は原因にだけに関わらず広く再発防止を目指さないといけないと考えた。原因究明はしなくてよいとか、原因がないと考えたわけではなかった。

(事故事実の究明と再発防止という方が本当は良かったのかもしれないと思います。)

考えは述べた通りだが、一定の定義づけをした上で原因究明と再発防止の言葉を使って報告書をまとめる。

○事故後、[]を通じて共有できた本件事故に関する各種資料について、いつ、どのように活用してきましたか。

監視カメラ映像を見るまでの最重要資料であり、特に教育学部の検討チームで分析、活用させていただいた。この資料をいただければ分析は不可能だった。

○本件事故に関する調査方針の決定や調査報告書の作成、対応ポリシーについて、「水泳事故対策本部」と「理事長室会議」の役割や位置づけについて、どのように認識していますか。各種対応に関する意思決定や判断・指示、必要情報の共有は、どのように行われてきましたか。

「水泳事故対策本部」は事故があつて急遽立ち上げたもので、実務的な仕事を担う組織であり、理事長室会議は意思決定、経営判断を行う機関であると認識している。理事長室会議は2週間に1回の開催で他の審議事項もあるため、対策本部会議が補完もする。両方の組織に関わるものが4名いるが、対策本部会議は不定期であるため、情報の共有ということでは難点があったと思う。

(特に報告書の作成段階にはいり、速度感を持って進めようとする中で両会議の情報共有が難しくなったことが問題だったと思います。)

現在対策本部会議の開催が少なくなっているの、今後は短時間でも定期的に開催して状況を報告、共有するようにしたいと考えている。

○事故から3年以上が経過した今、亡くなった畿央大学生 寺岡頑希さんに対して思うことを話してください。

大学として、また学部長として、前途ある学生の寺岡頑希君を亡くしてしまったのは全く申し訳ないし、つらい思いでいっぱい。[]さんの「生命倫理」の講義を聴くたびにそのことを強く感じる。今私たちがなすべきことをきちんと最後までなして、頑希さん、[]さんへの申し訳ないという気持ちを前向きに変えていくことが私たちの使命と思う。

以 上

内部調査

日時 : 令和元年10月31日(木) 14:00~14:30
対象者 : []係長(教採・公務員対策室)
調査担当 : []法人事務局長、[]大学事務局長
立会い者 : []氏(水泳実習安全管理担当顧問)

聴き取り内容 :

○平成26年度に教採・公務員対策室が組織され、対策室に配属されましたが、当初の教採対策の年間プランの原案作成はどのようにされていたのでしょうか?

教職支援センターから移った形で進んで、教職支援センターで持っていた対策講座等のプランは、年間プランはありましたが、それ以外のプランというのは特になかったんですね。

(原案作成はどんな形で?)

それに基づいて作られて、■■■■さんが平成 26 年度に配属になってから色々細かいことを綿密に作られていった形です。

○特に水泳実技指導に関してのプラン作成については、前年度までの状況の把握や、運営方法等についてどのように対応されたのでしょうか。安全管理等の配慮をもった対応とはなっていなかったのでしょうか。

教職支援センターの時には対策講座に水泳の形はなかったもので、■■■■の割引券を渡して各自が行くようにという形でした。割引券については学生支援センターの方が把握しておりました。

(自主練習?)

自主練習という形でした。

○この実習だけでなく、教採対策のプランについては「教採・公務員対策室運営委員会」において審議されていると考えますが、当該委員会の持ち方や審議の方法等についてはどのようなものになっているのでしょうか。

平成 26 年度から対策室の会が始まったと思うんですけど、3 回生とか 4 回生とかの現状の報告事項が多くて審議とかそういう形ではなかったです。今こういう形ですっていう報告する内容のものが多かったです。

(具体的に何かを決めるというような状況には当時なかったと?)

はい。提案してずっと承認される形のような細かいものはあったと思いますけど。

(報告はそれぞれの担当からの報告でしょうか?)

はい。

○平成 28 年度の教採対策のプランを審議承認というのが、平成 28 年 3 月 10 日開催の「平成 27 年度第 4 回教採・公務員対策室運営委員会」でされていて、年間のプラン一覧表が資料として残っていて、議事録には前年度からの変更点を確認されていると記載されているのですが、その際の審議等について記憶されていることはありますか。

いや、提案されて、そのまま通っていった形じゃないかと。だから、これといって提案された形じゃなくて■■■■先生が手伝ってくださっていたりした。こういう形だよっていうことは報告があったかもしれないですけど、それについて取り立てて審議したことはないですね。

(承認というのはその場に参加する全ての人で、よろしいですか?よろしいですね?みたいなことですか。)

そういうことです。

○教採・公務員対策室運営委員会としては、全体的な運営についての審議を行い、個別の取組み等の内容について詰めて審議するものではないということでしょうか。

始めはそうでしたね。

(現在は?)

現在は課題とかがあれば、それを提案して意見を伺っていく、一人ずつ意見を述べられるっていう形も増えましたけれども。当初はあまりそういう形ではなかったです。

(当時の教採対策プログラム自体が書道であったり、ピアノであったりという中でですね、特段、安全管理や事故防止というようなものに関わるプログラムは水泳だけだった?)

マットとか実技、体育系もそうかも知れないですね。

(それについて安全対策とか事故防止というのを話すほどのニーズというか要求は当時なかったのですか？)

初めて講座が始まった段階では掌握してなかったですね。

(今は違うということなんですか？)

だんだんとメンバーなんかをおさえていって、体育のマットなんかに関しましても…

○個別の取り組みについての実際の対応とか安全管理については、それぞれの実施者に委ねられているという状況であったということでしょうか。

そうですね。

○実際の詳細の運営の計画とか安全対策はどこで検討したりとか、どこで具体化していったらいいと思われますか？

やはり対策委員会の方で。それから、今できてますよね、何かするときに判断してくれる基準が。そのところで提案しておいて判断してもらうのがいいのではないですか。

○教採対策の個々の取組みに対する教採・公務員対策室の関与について、どのような考え、意識を持たれていたのでしょうか。

担当者が責任を持ってやるという形ですね。

(内容も、安全管理も？)

そういうことですね。

(教採・公務員対策室の運営委員会は委員会としてあって、対策室組織自体には中に先生方がいらっちゃって、個別に持っておられる講座に責任を持っている中で、対策室自体とういのはどのような機能なんですか？)

課題とかが出た時に、それをどういう風に解決していくかっていうんで、こういう所で補強したらどうやっていう提案とかをしていく形ですけど。

(個別の先生方や担当者が色々な講座をやっていて、そこで問題とか、あるいは成績が伸びていないだとかも含めてですけど、そういう情報が集約されてきて対策室として把握して、まとめて、委員会のところで審議するという機能？)

対策室は月 1 回の定例ミーティングというのが今、行われるようになっていて、そこでまず話しをして、そこで解決できるものはそこで話しをして、上げるものは対策委員会の方に上げていくっていう形で審議しています。

(ただ、内部の講座であり安全がどうのって出てこないの？)

それはあまり出ないもので、ほとんどが座学が多いもので。

(水泳とかっていう実習は割合でいうと、ほんの 1 %かというレベルの話。だからそういう対策っていうのを要求されることはなかなかないですね。現状ではね。)

そうですね。

(やっておくべきですけどね。)

はい。

○当日の事故については、いつどのような状況で把握されたのでしょうか。

私は管理職会議の最中に電話が入って、その場で知りました。事故があったっていうことは。

○把握された後、何か対応はされたのでしょうか。

会議が開きになったので対策室の方へ戻って、行ってるメンバーが[]です。その学生に連絡、電話を入れて、「今どうしているの？戻ってこれるなら大学へ戻ってきてくれる？」っていうんで学生が戻ってきてくれました。

(何名に連絡がつきましたか？)

2名戻ってきたと思うんですよ。自信ないんですけど。

(連絡も2名にされたんですか？)

連絡は、E君かな、電話いれて、そしたらG君が[]に行っているって言うたかな。今ここにいるのは二人だからってということで帰って来てくれたのが2名だったんです。

○当日、同行していた学生の何人かが本学に戻った際、対応はされたのでしょうか。その時の状況や、説明はどのようなものだったのでしょうか。何か指示はされたのでしょうか。

その時に、話を聞こうかと思ったんですけど、その時、面接講座が入ってまして、都合がつかなかったので[]先生に聞いていただいたんです。その時に[]先生が後で聞くとか言われたような状況があったんで、一番しっかり話を聞かれるのは[]先生かなということを思ったんです。ただ、その時は帰ってきたのを見ただけで。

(その時は帰ってきたのを見ただけで学生に対しては何もアクションをしていないという状況？)

はい。

([]先生が、「帰って来て」と言った意図は何を帰ってきたらしよう？)

状況を知りたかったんですね。

(事故状況を確認したいと)

事故状況というか、まだ寺岡君の状況も何も分からなかったんで。教えて欲しいと思ったもんで。

○本学の作成してきた3つの報告書を読んでお考えになったことや、不備な点等について何かコメントはありますか？

それは別に。

○事故から3年以上が経過した今、亡くなった畿央大学生 寺岡頑希さんに対して思うことを話してください。

生きていたら[]で元気な教員になってるやろうなと思いますわ。この子は[]に受かっていましたしね、[]の教採に通っていると思うんですよ。親御さんもそこところが悔しいやろうなと思いますね。

(だいぶ知っていた？頑希くんのは。)

この子は実は今言ったように[]受けたから講座は来てなかったんですよ。対策講座は出なくても免除になっているから。面談とかで話はしたこともありますし。元気なやんちゃな、ええ先生になっていると思いますけどね。

以 上

内部調査

日時 : 令和元年 10 月 31 日 (木) 14:30~15:00
対象者 : ■■■ 参与 (教採・公務員対策室)
調査担当 : ■■■ 法人事務局長、■■■ 大学事務局長
立会い者 : ■■■ 氏 (水泳実習安全管理担当顧問)

聴き取り内容 :

○事故当日、数人の学生がプールから対策室に戻り、話を聞かれたようですが、その時の学生や話の内容はどのようなものだったのでしょうか。

私の手帳にメモが残っておりまして、7 月 29 日には、その通り読みますけどね、夏季講座のプリントを作成していた。夏季講座のね。突然昼過ぎに電話がうちの事務所にかけってきたと思うんです。プールの対策中に、寺岡君が水の中で沈んでいたところを発見されたという悲しい知らせが入った、ということがメモされています。時間はきっちり 2 時というのではなく、2 時ごろと一緒に練習に参加した学生が帰ってきたので、当時の進路支援部長の方から、たまたま私がプリント作成を部屋でしておりましたので、ちょっと聞き取ってくれという上司の命を受けまして、私ともう一人いてたと思う、確か■■■さんだと思うけど。一緒に、たいがい聞き取りは 2 人体制でしますので、事務所のちょっと奥の部屋へ帰ってきた学生を呼んで、当時の状況はどうやったかと聞き取りました。

(どんな内容だった?)

一応、メモを私自身が、言ってくれたのを簡単に言葉ではなく図でメモを残している。ただ、どこまでこれが正確かどうかはわからないんですけど、このメモを元に話をさせてもらってよろしいですかね。

(はい)

10 時頃ではないかなと思うんですけど、プールに入ったんは。最初、15m を各自で練習したと。15m 自分の好きな泳法で、帰りはクロールで帰るという練習をして。次に、蹴伸びの練習をしたと。それからクロールの練習をしたと。これは 15m の短いラインですね。次は 25m の所へ、今は 25m のプールの 15m の練習をして、次は 25m の長いラインでクロールの練習をしたと。そこで休憩をして、ここに書いてあるのは、ラジオ体操、準備運動ですね。ラジオ体操をしてアクエリ阿斯を、水分補給をしたと。休憩ですね。その次に、今度は、50m プールの方へ移って、寺岡君はよく泳げるから自分でクロールの練習を 50m×4 本をしたんではないかなということです。他の者は 50m まで行かずに 25m まできて上がって、クロールの練習をしたということです。この辺がちょっと私もはっきりは覚えてないんですけど、休憩が先やったか、違うわ。で、寺岡君はクロールやけども潜水をしてたのかな。潜水を寺岡君がしてた。C 君が寺岡君は潜水をしてんねんな、ということで C 君は途中で上がって、寺岡君はずっと潜水で行ってんねんなということで、なかなか顔を出せへんな、長いこと潜ってんねんなということやったという話しですわ。

(そこに C 君はいなかった)

C 君はいなかった。他の子がそのように言っていた。

(どなたが帰ってきてたか)

ここに I 君らしきメモだけしてあるんですよね。他は何人が帰って来てたと思うんですよ。複数はね。ただ、寺岡君と C 君と G 君は括弧してあるから、帰って来てはいなかったのではないかな。警察とかの聞き取りかなんかで。寺岡君は帰ってこれないですけどね。I 君と E 君かな、そこはメモしてないのでメモなしでは分からない。

(I 君は恐らく話を聞いた一人か)

であると思うんです。ここに I 君らしきメモがのこっていますので。

(潜水というのはメモしてあるか)

潜水はね、メモはしてないんですけど、それは記憶です。

(聞いた話しか)

聞いた話し、記憶です。その辺が。前はどのように言いましたかね。

(前は潜水をしていたと聞いたというふうに)

そうでしたか。泳いでいたところの端のところで沈んでいたという、位置関係は、聞き取った時に言ってくれた位置関係は図に残っていますけど。

(I 君と思われる方に当日の寺岡君の様子とか体調とかを聞き取りした?)

そういうことの問いかけもしなかったと思いますし。向こうが言ってくれることを聞いたというだけです。

○その時、聞かれた内容についてはどのように記録、報告がされたのでしょうか。

個々には私の手帳に申し上げた通り記録として残っている。これを基にして、うちの職員で情報を共有したと、聞き取りはこうでしたよということ。

(口頭で?)

口頭で。

(上司の命を受けてということでしたが、上司に対してレポートを作成した感じはないか)

それはない。それやったらパソコンに残ってますので。それはないです。聞き取ったことをうちの職員が何人か寄ってということ。

○その他、この事故に関し、何かお気づきのことはありませんでしょうか。

それは、まったくないですね。これがなかったら私はまったく何も思い出せなかったと思います。

○本学の作成してきた報告書を読んでお考えになったことや、不備な点等について何かコメントはありますか?

ひっかかるという所は、最終的な報告書をまとめる上で、よく言われるように危機管理が、書いてあるとおりですけどね、今後どうするかということでリスクマネジメントとクライシスマネジメントのフローチャートというのが完成されて報告書のところにきちっと載るべきではないかなと思うんですよね。それが報告書に載っていないというようなところは、ちょっと報告書としては物足りないというか。

(危機対応の目に見えるフローチャート?)

そうですね。

(具体的なマニュアルもないけど、それも報告書にのるべきだと)

はい。それともう 1 点ね、この前の授業のビデオを見まして、お父さんの想いから考えたら、可能かどうか分からないですけど、鎮魂碑とか、適当な言葉がないかもですけど、そういう碑が大学のどこかに設けられてもいいのではないかなと思うんです。寺岡君を偲ぶとかではなくて、この学校自身が命に関わる仕事をする、就いていく学科もありますし、当然、教師になるというのは子供達の命に関わる仕事に就いていくものだから、見せてもらって、お父さんの中でね。自分は子供の手を絶対に離さないということを最後のまとめで言うておられるんですよね。だから、鎮魂碑的なものの中に、よく墓標があったら書きますよね、例えば永遠に平和にとか、戦争に対する鎮魂碑やったらありますけど。お父さんの「手を離さない」とかが例えば墓標の中に刻み込まれて、どこかに残すことによって、常に目が留まる。7 月 29 日にするか、

亡くなったに日にするか分からないけど、その時には。残ってたら、例えば退職した教員とか職員は去っていきますやん。でも、そのものが残っているということは、ここで学んでいく学生や、ここで働いていく教職員にとって、それを見る限り子供の命は守っていかないとあかんという、常に教訓が形として残っていくから、そういうものをキャンパスのどこかに作って設けていくことが寺岡君の慰霊というか。それだけではなくて、そこから学ぶことによって、大学が更に進んでいく、進化していくものの形を残していくということを報告書の中に書いて。報告書というものは第三者が読んでもこの大学の姿勢はどうなんやというものをアピールすると言ったらいかんのかもしれないが、姿勢を出していくものでないとあかんと思う。そういうものを残していき、命を大事にすることを永遠に、大学の追求するものにしたことを入れ込んでいってはお父さんの講演を聞いて、報告書を読ましてもらって、そこがちょっと欠けているのではないかなと。それと、先ほど言ったリスクマネジメントとクライシスマネジメントのフローチャートと。誰が見てもリスクマネジメントは、プールでいったらバディを組んでとか、リスクマネジメントになっていくと思うんです。健康管理をチェックするかね。誰が見ても、どんな行事にしても、うちの大学はこういうことを必ずやるんやで、やっていきますよというものがパッと見た時に載っている、見やすいチャートが報告書に必要ではないかなと思いました。

○事故から3年以上が経過した今、亡くなった畿央大学生 寺岡頑希さんに対して思うことを話してください。

寺岡君は、[REDACTED] 教員採用試験が第一志望でして、事故の一週間前でしたかね、面談の授業というか講座をしたときに、一般的なシミュレーションをして、いつもやっているとおり面接をして、その時に寺岡君に何で教員になりたいかを質問したんですよね。その時に、[REDACTED] でも、そればかりではちょっと物足りないのではないかな、というのが記憶にありましてね。[REDACTED]

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED] 他にも何か自分が教員をやりたいんだということを面接では言わなあかんでね。面接講座やから、次もおりますから、短時間やから、他どんなことを考えておきやとか、また次に聞くからね、ということでその時は終わったんやけど。でも、もし、その時、時間の余裕があったら、何でそんなに思うのと聞いたら、[REDACTED] 彼が話したかもわからない。そういう、[REDACTED] 教員になりたいんやなということがあったんやねと、寺岡君に声をかけてあげたいなと。

([REDACTED] 本質はそこにあったんだなと、ビデオを見て分かったというのを伝えてあげたいと。)

はい。

(そのビデオで何を言われたか知らないんですけど、皆さんご存知かもしれませんが。寺岡君は生前お会いされてお分りかと思うのですが、小柄な方なんですよね。[REDACTED]。)

ビデオでおっしゃっていました。

(ある時、[REDACTED] 一念発起の発端だったらしいことを、僕も聞いた話なんですけど、そういうことがあって先生になられたと。そういうことで本当に [REDACTED]。本当にいいお話を聞きました。[REDACTED])

そうそう、それで、いま言っていただいてね、お父さんが最後にそういうことを言われたんです。私はその話を聞いた
らね、私はその話を聞いて点と点がつながったなと実感しました。

(いずれ是非、機会があればお父さんお母さんご本人にその話をして差し上げてください。)

機会がありましたらね。

(今日、こういう話を聞いたということは僕の口からお伝えするかもしれないけども、是非先生のお口からも伝えてい
ただいてあげれば寺岡さんのお父さんは、どれだけ、反面悲しいでしょうけれども、反面支えになるかなと思います。)

そういう、ビデオを見せていただいて、やっと自分自身が気付いたと。恥ずかしいことでけね。

以 上

内部調査

日時 : 令和元年 10 月 31 日 (木) 14:55~15:32
対象者 : 教採・公務員対策室長 (当時の室員)
調査担当 : 法人事務局長、進路支援部次長
立会い者 : 氏 (水泳実習安全管理担当顧問)
聴き取り内容 :

○平成 26 年度に教採・公務員対策室が組織され、対策室に配属されましたが、当初の教採対策の年間プランの原案作成は
どのようにされていたのでしょうか。

最初の 26 年度の計画に関しては、当時の室長の方が、もう原案を作成されていたので、私はそこには関わって
いない状況でした。室長も、教採のことを特別詳しくご存知ということではなかったので、多分どなたかに相談した
うえで、室長が作られたと思います。

○特に水泳実技指導に関してのプラン作成については、前年度までの状況の把握や、運営方法等についてどのように対応
されたのでしょうか。安全管理等の配慮をもった対応とはなっていないのでしょうか。

私は 26 年度から担当になっているのですが、25 年までの対策室の前の旧教職支援センターの時の状況はもうわから
ないです。で、26 年度に対策室ができて、室長のもと私が担当してからは、26 年度の計画には水泳は入っていなかつ
たのですが、先生だと思うのですが、先生かもなのですが、先生にいつも水泳を見てもらっ
ていたので、「また時期が来たら先生に見てもらおうことになるのですよ」と私は言われているはずなのです。私は全然
わかっていない状況で入っているので、誰かに言われたい限り私は先生に相談しないので、多分どちらかの方にその
ことを言われて、先生にメールでご相談をさせていただいています。

(それは 26 年度の話ですか)

26 年度です、はい。

(ということは 26 年度以前に学生が自分でやっている的な時にも、先生は学生との関わりがあった可能性は?)

うーん、そこは私はなんともわからなくて、あったかもなかったかも。

○この実習だけでなく、教採対策のプランについては「教採・公務員対策室運営委員会」において審議されていると考えますが、当該委員会の持ち方や審議の方法等についてはどのようなものになっているのでしょうか。

運営委員会については、基本的にこちらから方向性を示して、委員会の先生方にそれについて承認をいただいて、承認いただいてからまたさらに具体的個別的なところは、もう一回私たち対策室の方で具体的なところは詰めていくという形にしていますので、細かいところまで全て一つ一つを審議するという形ではなく、方向性を承認いただくという感じになっています。

（全体としての方向性ですね？）

そうですね。

（一つ一つのプログラムについては、各担当の先生にお任せされている部分が多いということですか？）

そうですね。一応対策室の方で「こういう方向でしたい」ということは決めていくのですが、それを担当する方は、当然学科の先生にお願いすることもありますし、外部に頼むこともありますし、対策室内ですることもありますので、そこは担当の方がより具体的に進めていきます。

（一つ前の質問に戻りますが大事な項目なので、「安全管理等の配慮をもった対応とはなっていなかったのでしょうか。」というのが一つ前にあるのですが、今の質問にも関連してですが、これも各先生方に任せるとのことなのか、それとも全くプログラムの内容がほぼ安全とか事故に関わる内容ではないので、関心というか要求に上がっていなかったのかとか、そのへんの状況はいかがでしょうか。）

そうですね、今考えれば、もっと当然安全の所も考えておくべきだとは思いますが、当時としては水泳のことにに関して言いますと、結局先生や学部の先生にお願いしていて、本当にお忙しい中お願いをしているので、とにかく先生には「お願いします」ということで、中味のその具体的ところまでなかなかこちらから言えないということもありまして、もうお任せしていたというのが正直なところですね。

（全体のプログラムの承認について、その一つの要求事項として安全をちゃんと配慮しなければいけないよということを、あえて言わなければならないようなプログラム全体ではないということですね。例えば、ピアノであったり習字であったりとか。マット運動もあると聞いているのですが、マットとかプールとか考え方によっては当然、安全管理が必要になってくるのですが、当時はそれはわずかなプログラムであって、全体からすると安全とか事故防止を全体に呼びかけないといけないニーズはなかったのか。）

そうですね、本当に他の面接指導とか筆記対策とか非常にたくさんいろいろなものがありますので。

（それが9割5分以上というか。）

正直そうですね。そちらの比重が高いので。

（あえてそこに安全のことを持ち出して言わなければならないニーズは当然出てこなかったということなのか。）

出てこなかったですね、はい。

（必要なのに怠っていたと言うようなことは全く正反対なことですよね。）

そうですね。

○平成28年度の教採対策のプランを審議承認された委員会は、平成28年3月10日開催の「平成27年度第4回教採・公務員対策室運営委員会」ですが、その際の審議等について記憶されていることはありますか。年間のプラン一覧表が資料として残っており、議事録には前年度からの変更点のみの確認で、計画は承認されていますが。

運営委員会がわりといろいろなことをこちらから報告したりとか、これから次こうしていきますとかの案を出したりと、結構たくさんありまして、多分この時の会議も結構教員採用試験の結果のことで、結構分析のほうに割と多かったので、

次年度、要はこの28年度にこういうことをしていきますということに関しては、あまりそもそも時間を割けなかったというのがあったんです。で、その中で結局、次の年はここを変えますとか、こういったことを新しく入れますといったことは、結構強調して言っているのですが、それ以外の所は昨年通りの形でしますと言う感じで話しているので、水泳のことに関しては27年度から案に入れているので、引続きという形で委員会の先生方にはご理解いただいているというつもりです。

○教採・公務員対策室運営委員会としては、全体的な運営についての審議を行い、個別の取組み等の内容について詰めて審議するものではないということでしょうか。

そうですね。

（前提プログラムの承認とかは、誰か決裁権限者がいるのではなくて、参加者全員が挙手を持ってとか総意を持って承認するということか。）

そうですね、はい。

○個別の取組みについての実対応や安全管理に関しては、それぞれの実施者にゆだねられている状況であったと考えて良いでしょうか。実態として運営の詳細な計画や安全対策については、どこで検討、具体化すべき内容と考えられるでしょうか。

そうですね、当然対策室の方でも考えていかなければいけないですけども、例えば今マットであれば先生にいただいているんですけども、この水泳事故があつてから以降は、安全のことを配慮したマット対策指導の指導プランというものを事前にだしていただいているんです。で、学生さんに対してこういうところを事前注意事項、安全のための注意事項として伝えて欲しいということも先生からご指示を受けているのですけれども、そのへんの詳細の所についていうところは、私たちではわからないので、どうしても専門的なので、そこはやはりご担当いただく先生に安全面はしっかり考えていただいて、私たち対策室側としては、安全面に配慮していますとか、そういうものを考えて出してくださいとか、確認とか依頼しか私たちにはできないのかなとは思っています。

○教採対策の個々の取組みに対する教採・公務員対策室の関与について、どのような考え、意識を持たれていたのでしょうか。

そうですね、対策は、対策室サイドが行なっているものと、学科の先生方にいただいているもの、あと外部に依頼するものがあるんですが、それぞれ担当される方が違うのですけれども、同じ方向性を持ってその講座がうまく回るように、対策室の方で、特に私だけ対策室の中では事務方なので、私がそのへん上手く回るように調整をして、無事に上手く進むようにというところを考えて行動はしていたと思います。

（個々の対策の成果というか、何人参加したかという状況を集約されていますよね。）

それはしています。

（そういうときに、問題点とか、今年は集まりが悪いとかそういう話が、対策室として情報が集まってくると思うが、関与の仕方というのは、直接一つ一つの対策については、担当の方、担当の先生、担当の業者がするとしても、それがどう行なわれて、どういう評価がされるか、何か問題がなかったという情報は室として吸い上げなければならないことだとは思いますが、そのあたりはできているか。）

何をもってできている、できていないというのは難しいですが、講座それぞれの出席人数とかは確認していますし、担当されているのが学科の教員であれば、必ず教員の方にあとから状況を聞いて、「支障がなかったか」とか「何かご意見は」

とかは聞いていますし、そういう意味では集約はしているとは思いますが。

(マットとか水泳以外で怪我をしたとかということは、おそらく考えにくい？)

それはちょっと考えにくいのはありますよね。

(何かがあったことについては情報が上がってくるという必要はあるのかなとは思いますが。)

そうですね。そういう意味では、何かあればその担当の先生からは上がってくると私は思っています。

(具体的なガイドラインとかマニュアル化とかそういうことは、まだできていない段階ですか。)

そうですね、ちょっとできてはいないですね。逆に私もお聞きしたいのですが、水泳のこともあるのですが、筆記試験の対策講座とあと面接指導の対策講座と音楽の実技指導とマットの実技指導と模擬保育と模擬授業とか色々あるのですが、危険のリスクとか中味によって違うと思うのです。あまりその事後的なものというのはあまり思い浮かばなくて、授業中に具合が悪くなったとかそっちの方はあると思うのですが、どういう風なものを想定してどういったものを作らなければいけないかというのが、ちょっと見えていなくて私には。

(折を見て一応顧問として参加させていただいて、ミーティングを持ってもいいと思うのですが。例えば、マット運動だと頸椎損傷だとか命に関わるような問題が起きる可能性があるんですよね。水泳は文字通りそういったことがありますので、まずその参加者自体の命や健康に関わるような問題に対するリスクと、それから今お聞きすると模擬保育となってくると、お子さんを預かるというようなことがもしあるとすると)

それはないです。実際の子供は使わないです。

○水泳実技指導については、直接メール等のやりとりにより担当教員や学生対応をされていましたが、その状況等についての室長等への報告についてはどのようにされていたのでしょうか。室長や学科長から何か具体的な指示はされていたのでしょうか。

■室長には、基本的には何かトラブルがあったら相談をするという形にしてまして、「日頃の通常の報告に関してはメールとかで、何かする場合は僕をCCに入れてくれば良い」というふうに■室長から言われていたので、室長はそういう形でしていました。■先生に関しては、学科の先生に何かお願いする場合は、必ず事前に■先生の承諾を取っていたので、必ず事前に「こういうことをしてもらおうと思います」というのはお伝えしてご承諾をいただいてから動いていました。

(それは■先生の方から、直接学科の先生に声をかけないでくれ、私を通してくれと言われていたということですか。)

いえ、ではないです。学科の先生に依頼をするのは私なのですが、一旦まず■先生に「こういう依頼をします」ということをまず事前の了解を取っておいて、私はあとは個別に依頼を先生の方にするので、その時に場合によっては、お願いしに行くような場合は、「■先生のご了承を取っているのです、すいませんけれどもよろしくお願いします。」という感じでお名前を使わせてもらうことも時々あります。

(その仕組みは■さんの配慮？)

配慮と言うよりはなんでしょう。

(そうするようにとの学科長からの指示があったのではなく？)

ではないですね。本当に学科の先生はものすごくお忙しいので、教育の先生方は、そこにさらにプラスでお願いするというのは大変なことなので、必ず■先生にまずはという。

(それはご配慮というか。)

ですかね。

(■先生としては、「自分としては学科の教員に直接、教採・公務員対策室から指示がいくようなことは避けて欲しいと

思っているし、そう伝えているし、必ず学部会議の中でこういうことをやると言うことを全員に周知する」ということを言っている。そういう意味では、お互いそう思っているのがうまく機能しているということなのかなと思います。)

ですね。

(良識ある者同士ということなのですかね。)

そうですね。

(大学にはいっぱい組織があって、教育学習基盤センターだとか地域連携センターもそうですし、一体このやっている事業で何か起こったときに誰がどう責任を取るのという状況が大学にはたくさんあると思うが、そういうことについて何か思ったりとか大丈夫なのかなとか、こういうやり方したらうまくすっきりするのじゃないかとか、とか思ったことはないですか。)

その質問は難しいですね。言われればそうですよね。どっちがどういう責任になるか、というのはあるのですが、他の方がどう思っておられるかはわからないのですが、私は一応大学の事務職員の組織の一員ですけど、教員ではないのですが、ただ一応教育学部の学部会議には入らせてもらっていて、メーリングでも教育学部会議というメールのリストがあって、その構成員でもあるので、私の認識はだから対策室と学科の教員は同じ一つの組織だと思っている、私の感覚はそういう認識なので、何かがあったときに、それはどっちがどうこうというよりは、一緒になって同じ立場、地位、高さでそれにあたっていくと皆さん思ってくれているのじゃないかなという私の思いです。

(大学として責任を全うしていくみたいなイメージ?)

まあそうですね。対策室がどっちとかじゃないです。そういうことですかね。

○当日の事故については、いつどのような状況で把握されたのでしょうか。把握された後、何か対応はされたのでしょうか。

私は職場で仕事をしていて、会議から戻ってこられた■■■先生が■■■室長のどちらかからその旨を聞きました。

(聞いて何か対応したことはありますか。)

これも、多分これは■■■室長だと思うのですが、「同行していた学生さんが何人戻ってくるから、ここ対策室に来てくれるから話を聞いてもらえるか。」という風なことを言われたと思うのです。

(それは帰ってくる前に言われたのですか。)

そうです。まだその同行学生さんが来る前です。

(■■■先生がどなたかに電話をした、おそらくEくんだろうと思うのですが、どうなったのかという話になって、何人かは警察に行くか行ったかという話があって、「戻って来れるなら戻ってきて欲しい」という風に言った。戻ってきたところまでは■■■先生は見ている、誰が戻ってきたかは覚えていない。面接指導があったので、■■■先生とどなたかいたかもしれないが、その人をお願いした、というのが■■■先生の流れです。でも、■■■先生はちょっと違って、「帰ってきたのは見た。その時に■■■室長から話を聞いたってくれといわれた。」と。帰ってきて、そこで■■■さんから言われたという流れです。そこには■■■先生は介在していないし、■■■さんは介在しているけれど、■■■さんには帰ってきたときに言われたと。今の話は、帰ってくる前に「帰ってくるから話聞いてあげてな」と言われたとなると、微妙に皆違うのです。)

そうですね。でも私は、■■■さんが■■■先生かわからないのですが、どちらかから戻ってくるというのを事前にいわれていると思うのですがね。

(■■■先生がもう一人一緒に聞き取ったというのは、■■■さんですか。)

私もいたんだと思うのです。

(何かその■■■先生がメモを取られていて、■■■さん自体は何か聴取り当時のメモとか何か手控えみたいなものはお持ち

ではないですか。)

私は一切書かなかったので、■■■先生が学生さんの話を聞いて、「こういう位置やったんやな」みたいなのを書いているのを見ていただけですね。

(その記憶があるということは、そこに立ち会われたのは■■■さんですね。)

それは私です。多分元々は■■■先生には事前には言われていないと思うのです。たまたま■■■先生がその時間行かないといけなくなったので、「私は聞けない」となってしまったがために、「じゃあちょっと■■■先生」、ということになったと思うのです。

(その時の■■■先生は、そのメモのところに、I くんの名前が書かれていて、一人はI くんだったのだろうなあと、あとはちょっと覚えていないということを行っているのですが、それは誰か覚えていますか。)

それは帰ってきてくれた方ですか。私もそこは本当に覚えていなくて、E くんはいたと思うのですが、I くんはちょっとおぼえていないですね。いなかったんちゃうかなと。

(■■■先生も覚えているのではなくて、メモに名前を書いてあるというレベルなんで、「誰が行っていたの」と聞いたのかもわからない。本人から聞いたかどうかともわからない。そういう情報だったので、誰が帰ってきたかはわからない?)

はい。

○7/29 に同行したE さん、H さん、F さんに聴き取りをされておられますが、報告書以外に気になった点等ありませんでしょうか。

別の日にですか? ■■■先生の話は、この質問項目の話と合わなくなっているのですけれど。

(同じ日に2 回とか対象者を変えて聴取りとかしましたか。)

いや、それはないと思います。

(これは記録があるはずですね。これだけ具体的なことを書いているということは。)

これは、前に私が聞かれているのは2 月だと思うのですが、最初の1 回目の内部聴取りが。その1 回目の聴取りがあったときには、既に6 名の方への聴取りも終わっている段階だったので、6 名の同行学生さんの発言により「僕が大学に戻りました」とかいう話でこの3 名になっているのではないのでしょうか。

(29 日その日に聞き取ったのか、29 日に同行した学生に聴取りをしたのか、どちらとも取れるが、聴取りしたことはしたのですよね?)

私は、彼らに聴取りをしたのは、その事故の日だけです。

(3 名とは限定できない?)

私の記憶が怪しいのですが、E くんはいたと思いますので。私はこの質問を見て、じゃあこの3 人がいたのかなあという思いでいます。

(戻って、水泳指導実習については、先程メールなどのやりとりにより、担当教員や学生と対応されていたところで、学科長へも配慮のある事前の承諾をしていたというところで、その状況などについては、室長などへの報告もしていたのか。)

■■■室長にも、■■■先生のほうに、いちいち報告は多分していないと思います。■■■室長には。でも、私が動いているということ、イコール■■■先生の確認を取っているということは、室長はわかっていたはずです。

(水泳指導実習についてということで限定しても、同じように事前に承諾を得ていた範囲の中で動いていたと。逆に、水泳指導実習について、室長や学科長から何らかの具体的な指示というのは受けましたか。)

具体的な指示は、特段はないのですが、■■■先生からは、学科の予算でプール使用料を出していただいていたので、予算のこととかをご指示といいますか、学科の予算からだしますよといっていたのだと、26 年から■■■先生も水泳を

担当されたのですけれども、その時は、■■■先生から「実は■■■さんはこういう経歴を持っていて、■■■さんも見てくださるので、■■■さん、■■■さんにもぜひ頼んでみてください」ということを言われた覚えはあります。

(そういう背景があって、■■■さんから■■■先生に依頼をしたということですか。)

はい。

(その男子と女子の指導を分けるニーズというか必要性はあったということか。)

私自身はピンときていなかったのですが、■■■先生のお話だと、女子の生理の問題とかがあったりするのです。

(それは学科長である■■■先生もご了承というか、■■■先生からの話ですものね、■■■先生が見てくださるというのは。)

そうですね、はい。

(■■■先生は、水泳指導に女子の必要性もあるのだろうと思って、自分から学科長に「私も水泳指導できますよ」と言われた、ということです。■■■先生は、そういうことを言われたからだと思うので、直接やってくれというのではなく、おそらくそれを伝えたのだと思う。)

そうですね。それでこっちに来たんですね。

(その所の話は整合性がつくのですが、学生が帰ってきたところだけ整合性がなくて。おそらく■■■先生の感じでいうと、■■■先生ともう一人ということで、二人で聞いたのではないかと。■■■さんも入っていたのですか。)

■■■先生がどうおっしゃったかわかりませんが、全部私一人で聞いたという感じで言われていないなら、誰かもう一人もいろいろ聞いていたという感じでした。であれば補助的にもう一人学生に質問したのは、私ではないです。

(じゃあ■■■さんもいた可能性がある？)

はい。

(では、事故後直近の報告の通りですね。)

それは正しい気がします。

(帰ってきたのは■■■君、■■■君、■■■君の3人で、■■■くんは帰ってきていない。)

○本学の作成してきた報告書を読んでお考えになったことや、不備な点等について何かコメントはありますか？

先程の質問でも出てきた、帰ってきた学生さんのこともそうですが、記憶が飛ぶというか抜けるのだなというのをすごく思っているのですが、3年経ってしまっていて私自身も記憶も本当に怪しい部分が結構ありまして、そういう意味でいうと、あの報告書に書かれていることについて、例えばそれ以上何か言えるとか、あるいは「ここって違うんじゃないの」って言えるかと言われた時に、もうちょっと自信がないので、とりあえずあれはあれとして大学として出せるようにして、あとはいち早く完成できるように、対策本部のメンバーでもあるので、やるしかないという思いだけです。

(記憶については検証できないという発言は理解しました。例えば、作り上げた報告書について、構成とか内容とか事項、こんな機能があったらいいとか、こんな内容があったらいいとか、そういった不備とか望み、提案とかはいかがが。記憶は関係なしに、報告書の中味、機能としてはいかがが。)

特段はないといいますが、気付いたときは気付いたときに私はメールでお伝えしていると思うので、今特にそれ以上はないです。

○事故から3年以上が経過した今、亡くなった畿央大学生 寺岡頑希さんに対して思うことを話してください。

事故がなければ、寺岡くんは先生3年目をしていると思うのですよね。本当にああいう事故になってしまって、彼の夢が叶わない形になってしまったことに対して、本当に申し訳ないとか、そういう思いでいるのですが、じゃあ私が今何ができるのかと考えたときに、寺岡くんのそういうことがあったので、今先生になろうとして頑張っている学生さんは全力

でサポートしてあげるといことが、まず一番かなとは思っています。でも、さっきご指摘を受けて反省しているのですが、安全のところで、もっといろいろこちらの方でも考えていかないといけないので、そこはこれから精一杯やっていかなければいけない、と思っています。

以 上

内部調査

日時 : 令和元年 10 月 31 日 (木) 16:20~18:00
対象者 : ■■■教授 (事故当時の学科長)
調査担当 : ■■■法人事務局長、■■■進路支援部次長
立会い者 : ■■■氏 (水泳実習安全管理担当顧問)

聴き取り内容 :

○平成 21 年度よりこの実習が始まりましたが、当時の開始のいきさつ等について記憶されていることはありますか？教採・公務員対策室の前身である「教職支援センター」時代のことです。

教職支援センターかどうか分かりませんが、当時「基礎教育センター」というのがあり、私が基礎教育センター長の立場をして、教採だけではなく一般教養に関することをやっていて、それとこんがらがっているかも知れないのですが、元々できたイメージは、一番最初の卒業生を出すときに、■■■さんが当時の■■■学部長と私に、学生の模擬試験の結果を、これだと何名ぐらい通るかをおっしゃって、■■■さんとしてはこれでは一桁とおっしゃって、■■■先生とこれはえらいことだということになって、公の会議を通さずに、色々な先生方と、私であれば数学の問題をどうするかとか相談した。それが発展していったというように記憶しているんです。

(その一環で水泳の出来ない学生に対応するというようなことになった？)

そうですね。だから■■■先生うんぬんというのは、ずいぶん後の話だと思います。

(当時の教職支援センター長は■■■先生で、■■■先生の記憶では、当時はセンターとして水泳をどうこうというのではなく、泳げない学生に対して、プールのチケットを出してあげたり、教えてくれる学生を紹介したりという対応でスタートしたとおっしゃっているのですが。)

そうですね、いまさに言われた通り、数学が弱い学生がいたら私の部屋にきたりとか、そういう形でした。会議を通すというようなことはなかったのですが、そういうことをしているということは、私は、学科長のときでしたので知っています。

○当初の状況は、学生まかせで本学としての関与はほとんどなかったようですが、実際の運用はどのようなものだったのかご存じでしょうか。

(当初の状態は学生任せで、本学の関与というのはなかったということですかね。)

ですよね。ただ、学部会議では報告されていたんじゃないかと思うんですよね。こういう制度があるからとか、(教採公務員対策室の)■■■さんがこういうことを考えているということを、私が事前に聞いて、学部会議で、例えばこういうことを考えているんで、■■■さんから相談されたら是非協力して下さいという形で。そういう形やったのではと記憶してい

ます。

(それは教採・公務員対策室が出来たあとの話ですね。)

はい。

○平成 25 年度から本件に教員が関与するようになっていますが、そのいきさつや状況を記憶されていますか？教員の関与に関し、学科長として指示等はあったのでしょうか。

■先生とか■先生とかに直接言ったかどうかについては、記憶がないんですけど。先ほど申し上げましたように、■さんなりと相談して、じゃあ水泳練習も必要や、あるいはピアノ練習が必要やというような話になってきたら、私が了解していると、私が了解して教採公務員対策室の方が、先生に交渉してもらおう、そういう形やったと思います。

(先生もご存じの■先生のコメントとしては、最初は■学科長からと)

■先生は言ってますね。

(■先生としては、直接依頼はしていないということですね。)

そうですね。たぶん、形式上はさっき言った通りですが、たとえば廊下で会ったときに、■先生頼むよって言ったかも知れません。

(学生が主体的に、たとえばチケットをもらって行っていて、自分が泳げる友達を見つけてきて指導を受けるという、学生主体の形から、学校が音頭を取って先生を充てて行うということになったニーズというか、発展形というか、必要性というのは当時どのような感じだったのでしょうか。)

特に水泳とかマットですね、それからバスケのゴールにボールを入れるというのは、学生は苦手であろうし、大学入ってきてからほとんどそういうのはすることないじゃないですか。だからそこをサポートしないといけないということだったと思っています。

(それはその他の部分含めて教採対応として、いわゆる対策として出てきたもので、サポートしたらいいんじゃないかということが出てきた？)

そうですね。早い段階でどっかの会議でこういうことしようと思ったという事は、私は記憶がないです。そういう学生の要望があって、私たちがこのことをこの先生に頼んでもらおうとか、そういう形やったと思います。

(当初から基本的には、危険なところとか、安全対策とか、リスクが伴うようなところとかは少なく、どちらかというピアノとかとういようなものが全体的には多かった。)

そうですね。ただピアノとか、いわゆる体育関係がしてくれるのは、同時だったかどうか分からないんです。ただ、私は、■先生に対しては、本当に■長い経験をお持ちですし、しかも■の顧問もされていたので、十分そういうことはされているだろうと。ただ、一般的にうちの教育学部の教員は、現場職歴のない先生もいますので、そこは気にしてたということはあります。特に気にしていた、一番インパクトが強かったのは、うちは新入生合宿というのがあり、学科長として着任した 1 年目はスケジュールが入っていて行けなかったんですが、学科長として初めて行ったときには、向こうに行ったとき一人の学生がいないということが分かったんですよ。それで私は当然詳細な名簿もあり、何人の学生が来たか分かっていると思っていたのに数が合わないと言っているのが、名簿の存在を聞くとないに分かったの。その次から関係の 2、3 人の先生を集めて、■新入生合宿をどうするかについて話をして、きちんと名簿を作って、各バスの中でもチェックをして。そういう形だったと思うんですよ。まさかそういう初歩的なことができていないとは。

(びっくりしたでしょうね)

びっくりしました。誰かわからないけど誰かがいないという状態でした。

○この実習だけでなく、教採対策のプランについては「教採・公務員対策室運営委員会」において審議されていると考えますが、当該委員会の持ち方や審議の方法等についてはどのようなものになっているのでしょうか。

事前に■■■さんがこういうのが必要だという事になったら私に相談してこられて、それでは学科の教員の力を借りようと。学部会議でこういう形でやるので、関係する先生方のご協力ください。そういう形だったと思うんです。私が了解したうえで、■■■さんが先生方をお願いするという形だったと思います。

(この委員会の構成員という事で確認させてもらっていますけど)

○平成 28 年度の教採対策のプランを審議承認された委員会は、平成 28 年 3 月 10 日開催の「平成 27 年度第 4 回教採・公務員対策室運営委員会」ですが、その際の審議等について記憶されていることはありますか。年間のプラン一覧表が資料として残っており、議事録には前年度からの変更点のみの確認で、計画は承認されていますが。

特に記憶していることはないですね。同じような流れだったと思っています。

(この委員会の構成員の方は同じように言われていて、全体の説明があって、委員会全員の合意的な判断で承認される。)

そうですね。というのは、前年度特別な問題があったわけではないという報告を受けて、私たちも学生の動きを見ていて特別な問題もなかったもので、じゃあこの案で行きましょうということになる。そういう形ですか。

○教採・公務員対策室運営委員会としては、全体的な運営についての審議を行い、個別の取組み等の内容について詰めて審議するものではないということでしょうか。

(この委員会の運営というのは、一つは全体的な大きなものを承認するという事で、何か具体的な問題が起きた講座とかそういったことについては細かく審議をするけれども、それ以外の 1 つ 1 つを細かく審議するようなものではない。)

そうですね。そういう意味では、ピアノについては担当者がいないということがあったんですよね。教員の数よりピアノの要望が数多くて、どうやって回したら良いのかというので。それで、高校の■■■先生とかに特別に入ってもらったりしていた記憶はあるんです。非常勤の先生にも入ってもらったりしてましたね。

○個別の取組みについての実対応や安全管理に関しては、それぞれの実施者にゆだねられている状況であったと考えて良いでしょうか。実態として運営の詳細な計画や安全対策については、どこで検討、具体化すべき内容と考えられるでしょうか。

そうですね。■■■先生は、体育専門とは違ったんですけど、色んなときに会話していて、水泳の事もそうだし、スキーの方の事も、こういう経験をしているというので。キャラクター的に、この方は大変いい意味できちんと周到して動くことは分かっていたので。本当に■■■先生については全く疑いもせず、私よりはるかに経験があると思ってましたので。

(スタディが違う分野ですからね。前の 25 年でしたっけ、■■■先生が担当されて、その後■■■先生が女子を担当されるあたりの経緯については)

それは、私のところに■■■先生が来てくれたと思うんです。女子について、もしよかったら私が担当しますよ、と。というのは色々な意味で男の先生が女子を教えるというのは、まあ一般論として問題があるというのは、私も思ってたので。渡りに船のようなことでお願いしますと。その時に、更に自分はどのように水泳に関係していたかということをおっしゃった。大学時代も水泳のサポートをしていたと。

(たまたま■■■先生の申出でそうなったのか、それとも学生からの声とかニーズでそうなったのか)

そこはちょっと分からないですね。学生が■■■先生に直接お願いしたかも分からないですね。

(教採対策の細かい計画や安全対策等についてはどこで検討すべきと考えますか?)

水泳とか、以外にもですか？

(以外にも、全体を含めて。)

今まで委員会は通していませんでしたが、学部に関しては、先ほど言ったように現場でそういうことを十分に経験していたか、得てして大学の教員は、現場はノータッチで頭だけで考えている人も前職ではありましたので、体育専門でも実際体育を指導したことがないという先生もいたので。現場というのを基準にして、私も個人的に気になるころはその先生に聞いたりしていました。

(例えば今回の事故の後、 先生の体操実習に関し、例のイベント実施計画書が回ってきたんですが、その際に 先生に安全対策の検討をお願いしたら、相当量の安全対策文書を作って頂いたのですが。ただそれも、学科関連であれば取扱いは違うと思うのですが、個別のものは担当するご本人が考えざるを得ない状況になっているのではないかなと思うんですが。それでも仕方がないのかもと思うんですが、それはどうなんだろうとも思うんですが。)

大きなことですよね。結果的には体育関係だから体育の先生に原案とかを作ってもらったことがあっても、それをどこかでオーソライズしておかないといけないと思いますね。

(ご本人だけが考えてご本人だけでやるというのは良くない。)

そうですね。先ほどの〇〇先生が出されたものは、私も目を通して頂きました。こんなに詳しく考えて下さったなど。ただ一般的に例えば体育の先生だけではないんですが、体育の先生にとってはいたって当たり前のことであるわけですね。それを文書で書けと言われると難しいところがあると思うんです。例えばこういう目配りしてるとかいうのは、いたって専門が専門ならあたりまえの事で、それをさあ書けと言われると難しいところがあると思うんですね。

(大学というものは責任主体が明確でない、例えばこのような教採対策のプログラムについてもどこが主催者で、どのような責任があるのかというのが曖昧なところが大学の中にはいっぱいあると。ただそれが社会的に何か事故があった場合に認められるのかどうか、それって非常に無責任な発言になるんですね。責任の所在が不明瞭です、それが大学ですというのが社会的に通用するのかと。となるとこの教採対策の対応プログラムというのが、誰が主体なのか、学生主体で学校も学部も教採対策室も協力する形をとるのか。教採対策室が主催して学科学部は協力するのか。それに伴って誰が安全を手当するのか。誰が安全に責任を持つのか。というようなことが出てくると思うんですね。これはこの聴き取りというよりは先の話になると思うんですが、前学科長としての見識で、今後どうあるべきとお考えでしょうか。)

そのことにダイレクトに答える訳ではないんですが、教育学部の学部会議の時には教採対策室の大半の方が同席しているんですね。だからみんな同じように議論しているんです。これは学部かこれは教採公務員対策室かと言われたらなかなか分けにくい状況が起こっていると思います。学部教員の全ての会議の中に、最近は卒論の時にも一緒に入ってもらっている、ただ、そのときは座ってもらっているだけですが。今まで議決をするということがありませんので、手を上げてくれとか、そういう事態になってきたら、これは学部会議か、教採公務員対策室も含めた学部会議かというのを分けていかないといけないと思います。今まではずっと基本的に話し合いで、ご意見有りませんかという形だったので、■■■■さんが言われたようにそこを分けるとね。いい意味で教採公務員対策室と学部会議とが形式上どうあれ一体化していると思うんです。いろんな情報も交換しているから。教採公務員対策室というところは、最後は運営委員会があって、そこには学部長も学科長も入りますので、そこが将来的には最後の、あくまできちんとここだということを明文化しておいたらいいいと私は思っています。

(今回起きてしまったことについて、尊い命の犠牲を受けて、再発防止とこれを無にしないための安全対策の構築という
ことを考えると、その辺をあいまいにしたままではまずいと思うんですね。)

水泳に関しては、足を運ぶということにはなかったので。ただ、先生は色々な経験はあるけれど、体育専門ではないというので、色々と報告してくれました。アシスタントを必要としたら私のほうで手配するとお伝えして、実際入ってもら

った学生もいたわけですよ。■■■先生はどんどん情報をくれたので。ただマットとかボールとかは私も気になってましたので、プールには私自身が足を運ぶという事は無かったんですが、体育館でやるときは、必ずその期間に行って1時間ぐらいちゃんとやっているのを見に行っていました。

(私も立場上、内輪の立場を頂いているからこの小さな大学の良さ、出来ることをみんなやって、■■■先生は専門ではなくてもやってくれるとか、お互いにそれぞれがみんな力を出し合ってやっているから、明確に責任の所在とかというのはという気持ちも状況もよく分かる。でもあえて外から来させて頂いている立場とすると、それは大学の特徴だからとか、大学にはよくあることだからというのでは理由は立たない。)

最後どこが主体かということをはっきり決めるような形になっていたらいいということなので、そこに行くまでは学部と一体になって教員と教採対策室とがと、思いますね。

○本件実習の実施については、非常にあいまいな運営状況であったかと考えられますが、学科長としての本件に対する関与については、どのような立場と考えられていたのでしょうか。

質問がなかなか難しいと思うんですが、どのような立場かというのは。学科長が無関係というのは絶対ないと思っていますし、何かあった時に、例えば心配なことは事前に自分は知っていたのに事前に対応していなかったというのは、学科長としての大きな責任だと思っています。学科長というのは、たぶん■■■学部長も同じ考えかと思いますが、教育学部は1学部1学科なので、学部長と学科長の境目が分からないんです。ここは以前から言っていますが早急に整理しておかないといけないと思います。

○平成26年度から2名の現代教育学科の教員が、本件に継続的に対応いただいています、お二人に対し何らかの指示や確認はされていたのでしょうか。

■■■先生には、先ほど申し上げたように、全幅の信頼を置いていて、それが結果的には今回大きな事故が起こった訳ですけど。■■■先生は、逆に向こうの方からどんどん課題があれば言ってきてくれました。どこのプールを利用するかとか、料金の問題とか、一般のところ、■■■かどこかのプールでは講習をするといい顔をされないとか。そのために少人数で行くと大丈夫なので少人数でいくとかを、いちいち■■■先生から言ってきてくれたので、相談に乗っていました。

(■■■先生に全幅の信頼を寄せる根拠について発言されたと思いますがもう一度お聞きしたい。)

■■■先生がうちに来たのはおそらく■■■ぐらいで、■■■合宿の時に新任の先生も行ってくれたので、向こうで体育の授業とかのことを一般論として話を聞いた。■■■の顧問をしていたので、■■■も結構トラブるクラブでしたので、大きなトラブルは無かったのか聞きました。

(■■■のですか)

■■■のです■■■、私はそこはまったく、準備運動等もしてるしていないということはありませんでした。

(大学には現場経験のない教員もいるなかで、■■■現場経験があることで安心していただけですね。水泳指導についてはどうなのでしょう。)

それも聞いていました。■■■先生は、水泳の授業もみんなやりますのと言っておられました。

○事故の発生した■■■先生の実習について、日程や参加状況等について事前に何らかのことを把握されていたということはあるのでしょうか。

ありませんでした。

(ご本人からの報告もなかったということですね。)

はい。私は聞いたかも分かりませんが、まったく記憶にないので。もしかしたら■■■さんが情報をくれていたかも知れませんが、聞き流していたかも知れません。

(■■■さんの方から具体的な手配を各学部の教職員の方にされるということだったようですが、■■■さんの方から逐一相談があって、先生の下承があったということですね。)

そうです。必ず■■■さんに、■■■もこの話は下承していることを添えて下さいと言っているんです。

(教採対策室の動きについては、ちゃんと学科の先生に報告なり相談があったということですね。)

それは、■■■さんはきちんとやってくれています。

○当日の事故については、いつどのような状況で把握されたのでしょうか。把握された後、どのような対応をされたのでしょうか。

29日は金曜日だったので、私は2時間目の授業が終わって、何かの関係で事務室におりたら、ちょうどたぶん■■■さん、■■■さんに呼び止められて、そこで初めて知りました。

(そのときの初期対応についてはどうでしたか。)

毎日日替わりでもいいから1人は必ず病院に詰めてくれと、お願いしました。それから女子の実習について、これからであったので、■■■先生に実習は中止したいと申し入れました。それから窓口は一本化して欲しいと、特に■■■さんに対してですね。それからすぐ今夜にでも委員会を立上げて欲しいと。それからマスコミがどんどん聞いてくるでしょうから、答える内容は必ず保護者の了解を取ってくれと。それから委員会の了解を取ってくれということを言いました。それから同時に■■■の実習もありましたので、その中止の意向もそこで伝えました。これはこの時かその後か、■■■先生の聴き取りをしますので、その後■■■さんに言ったのかも知れません。委員会の立上げや窓口の一本化や病院は、仮に向こうの方が色々言われたとしても、絶対に病院にいてくれということはお願ひしました。

(事故に関して、■■■先生と■■■先生は、先生の方から連絡があったと言っているのですが。)

はい。

(それ以外に連絡された方はいますか。)

その二人だけだったと思います。たぶん■■■さんと■■■さん■■■さんと話をしている終わり頃に、■■■先生が事務室に来られたので、先生も一緒に入って下さいとお願いしたところで、ほぼ時間的な時差は5分10分だと思いますが、■■■先生もこういう事故が起こったという事は、ご存知になりました。

(窓口一本化された時に、どなたが窓口になられたのですか。)

結果的には、■■■さんとこへの窓口は■■■さんだったと思うんですね。病院に詰めるのは基本的に■■■さんということになったと思います。

(確定はしてなかったんですけど、原則的にそうした。)

だから■■■さんは、ほぼ毎日わずかな時間でも行ってくれました。大変有難いと思っています。ご存知のように■■■さんは誰かを詰問するようなことは無かったんですけど、一般的にはよく。それだったので先ほど申し上げましたが、何かあっても絶対に大学に戻らずに向こうに居て下さいと申し添えました。

(的確なご指示を飛ばされたという背景には、先生のキャリアというか過去の色々な実績もあったかと思いますが、事故の調査とか、証拠の確保とか、事実関係の所作に関する指示というのはどうだったのでしょうか。)

その時は、私にとっては色々な何が課題だったかというのは、委員会が立ち上がったときにそこでオーソライズして、どういう形ですかというのがその委員会であると思っていましたので。

(ご自身単独の指示ではなくて、立ち上げた委員会に置いてどのような調査をすべきかとか、物的証拠の確保をするとかと。これは実際どういう流れで行われましたか。)

この辺は大学に対して私がスムーズな動きをしなかったのかも知れませんが、なかなか事故の原因というのに入らなかったというのが、私にとってはまどろっこしかったという気持ちになっていました。まあそれはあくまで事故の起こったのが7月で、9月の下旬ですか、大学として第1報が出たんですけど、時間の経過だけだったので、これは全然報告書の流れとしては違うと。正しいかどうかは別として、うちは教育機関だからこのところで教育的に何が欠けていたのかというのは当然考えないといけないと思っていたけれど、対策本部会議の中で犯人探しはよくないという表現があったのがずいぶん私にとってはつらい思いでした。犯人探しというよりも、どこに課題があったのかというのを前面に出さないといけないと思っていましたので。それは決してここに原因があった、課題があったからといって、それに対応している方を問い詰めるとかそういうことではないんですね。やっぱり組織として、どの方がどういう動きをした、そういう動きが起こったバックというのが大事だと思っていましたので、そこを整理しなければ、どんな報告書を出してもご遺族の方は、事実経過は正しくても、教育機関としてどう判断するかということが無かったら、絶対納得されないとは自分の経験上思っていましたので。

○事故当日、戻った 講師と面談をされていますが、その際の状況はどのようなものだったのでしょうか。報告以外のことは話されたのでしょうか。

本人の雰囲気ですか？

(雰囲気とか変わった様子とか)

はっきりと私の目を見ながらしゃべる方ではなかったので、微妙な話になったら。ただ、淡々とおっしゃってもらったので、その時に、夕方5時から始めたと思うんですが、そこで初めて私と さんが彼にあったときなんですね。それでどんなことがあっても、矛盾していてもいいから全て時系列でメモして下さいと言うのをお願いしました。それをある意味で実行してくれたんで、彼が、夜、帰って書いたメモというのは私ももらってますし、大学もお持ちだと思います。

(それはメモの作成を指示というか依頼されて、その場では先生自体が聴き取るという形ではなかったんですか。)

いろんなこと、どんな状況だったかと聞きました。その時の聴き取りメモは持っています。今となっては、まさか10分間うんぬんということとか、ずっと座ったままとか、そのようなことは思いもつきませんでしたから。思いもつかないというのは、当然、監視なんだから一定リズムで動いているだろうと思っていましたのでね。その意味でも、橿原市の時系列の報告書というのは大変有難かったと思っています。

○事故の報告を受けた後、学科長として直接 先生本人に、どのような指示をしましたか。また、事故調査に関して、どのように関与・協力させていただきましたか。

先ほど言ったその日は、まさか背景としてああいう状況があると思っていませんでしたので、とにかく時系列で書いてくれというのは言いました。事故後、まあ何月何日に 先生に会ったかというのは、それこそ今となれば何十回とお会いしていますけれど、彼はなかなか自分から言わないんですね、だから仮にそれが事実かどうかわかりませんが、本人からしゃべってもらうというのが大変大事だったので、私の方が例えば橿原市の時系列の資料を見せてもらったら、この辺が問題だろうと思ったから、誘導はしますけど、彼は自分から進んでは言ってくれなかったから、意味がないと思ってましたから、ずっと待ってましたけど、なかなかおっしゃらない。

○事故以降、 講師への対応を頂いていますが、どのような配慮や意識を持って対応されてこられたのでしょうか。

通夜があったのが3日4日後だったと思うんですね。通夜行ったときに、■■■先生も来ていてずいぶん後ろの方に座っていたので、絶対■■■さんから見えるところに座ってくれと。それで通路側に座ってくれとお願いしました。というのはこのところで挨拶を、頭下げるだけでもいいからと、前の通路側に座ってくれとお願いしました。■■■さんもこっちに来られて、目的は分かりませんでしたが、■■■先生も立ち上がって頭を下げてくれていましたので。それからいつ言ったのかは、たぶん事故の間際だと思いますが、不備なことがあっても自分から言ってくれなければ、誰かが誘導するのはダメなので、気づいたことは何でも言って下さいと。それから、つらいこともあるかもしれないけれど、絶対に逃げないで下さいと。ご仏前にも頻繁に行って下さいと。ご仏前に行くときに、■■■さんに何か話をするという事ではなく、向こうへ行って頑希君に対する思いを言ってくると自然と話も出来るからと、それは頻繁に言いました。それから絶対に事実に関する事を想像では言わないで下さいと言いました。こうであつたろうとかという事は避けて下さいと。ご遺族の目を見て必ず話すようにして下さいと。人間つらいことがあったら目をそらすのが一般的なので、■■■さんの目を見て話して下さい。それでこれは半年以降だと思いますが、ただ済みませんでしたとだけ言うのは止めておいて欲しいと、何が自分としては不十分だったかと具体的に言って、お伝え下さいと申し上げました。ただ、助けてあげられなくて済みませんというような表現はやめてほしい、助けられなくて済みませんというのは、一般の通行人がたまたま見落としたような感じなので、貴方は立場が違うんだから、助けられなくてというのはやめて下さいと言いました。気持ちとしては、助ける義務があつたと思っているんですね。命が生き返るという意味ではなくて。まずいことは先ず自分から自主的に言って欲しいと。特に樞原市の時系列の資料を見て自分でも思うこともあるでしょうと。最初の1年ぐらいは■■■さんのところへ自分一人では行きにくいだろうと思って、基本的にはずっと一緒に行ってたんですね。夜遅くなったらその辺で飲食しながら。そうすれば彼の心も開けるかと思って。でも何にもおっしゃらないんですね。ひょっとしたら、この方も追い詰められているのかなあという気持ちは持っていました。

(以前の■■■先生とはそのところは大きく違うんですか。以前からそういう方なんですか。)

そうですね、笑い話とかはものすごく元気がありますね。学部で飲食会とかした時は、すごい元気出されるので。そのギャップを感じたので、■■■さんの目をちゃんと見てしゃべって下さいと時々申し上げました。

(今回この実習を任せる中で、不安はなかったですか。)

重要な役目は任せられないと思ってますね。

(当時ですよ。)

事故が起きる前は全く疑いませんでした。マットをするときには私も時々見に行っていました。プールでのあのカメラを見た後は、まさか素人が行ってもあんなことはあり得ないという気持ちがあつたので。体調を気にしているんですね。彼の。当日は30分座りっぱなしですからね。普通だったら座っているのがしんどいだろうと。それは報告書に書かせてもらっていますが、悪いというのではないんですよ。どういう意味があつたのかというのがね。

○■■■先生の聴き取り内容の中で、先生との関連部分がありますが、その内容は正しいのでしょうか。

事前にやってくれと言ったかどうかは、私も記憶に自信がありません。学部会議で■■■さんから言ってくれた時には私も承知しているので協力して欲しいと言ったあとで、廊下であつたら■■■先生頼みますと言っているかも知れません。頼むという事を目的に言った記憶はないんです。

(それ以外は特に気になるところはないですか。)

決定的に私が気になっているのは、事故当日に■■■さんと私とで話を聞いたときは、C君がまだ潜っていると■■■先生に言いに来たと。

(■■■先生の答えの変遷ではなくて、先生がらみのところで気になる点という意味です。)

それはないです。■■■先生が私にからむところという意味ですね。それはないです。

(■■■先生のコメントが変わってきているのは、みんな認識しています。)

○■■■先生も対応されていた正課のスキー合宿や■■■の実習での安全対策はしっかりされていたことは間違いないでしょうか。

そうですね。基本的に単独で動くというのはないんですね。本部という部屋で私たちは居ますので、ゲレンデ巡回の時も本部から見渡せますので、変な動きをしているという事はありませんでしたし、複数の教員で巡回していましたので。

(正課で行われていたところでは、■■■先生もしっかり安全対策をしていたということですね。)

そう思っています。だから残念なんですよ。大学の中で色々やっている中に彼もスタッフとして入っていて、打合せもして事前の健康チェックも全てしているのに、なんでこの時しなかったのかというのがね。そこが畿央大学として持っていた折角の方法というのが活かされていないというのがね。

○事故発生後、学科長として同行学生らと、いつ、どのような話をしましたか。

何日というのは覚えてないんですが、このまましたら■■■先生と学生は卒業しますので会う機会が困難だろうと思って、日にちは調べたらわかると思いますが、学生たちに呼びかけて■■■先生と話をと、学生4人ぐらい来てくれたと思うんですが。私の部屋で■■■先生と学生4人ぐらいで話を。その時も大したことをおっしゃらないので、これは将来大変になるかと思ってました。何とか時間を延ばして、何か言ってくれるかと思ったんですが。「みんなすまんかった、迷惑かけたな」程度でした。それからこれは■■■さんの方からもおっしゃって下さったと思うんですが、大学全体の卒業式の後、各学部学科に分かれて賞状とか渡すときに、その後、事前に言っておいて■■■さんご夫妻と妹さんとが来てくれていて、■■■夫妻と6人の卒業生とが、少しでも話をする機会を申し上げました。これは■■■さんも要望してくれたからだと思うんですが。出だしはどうあれこういうことをさせてもらいますと言うのは、■■■さんに了解を取っています。あとE君というのが同行学生を中心でしたので、E君にはもし■■■さんのところに行く気が有って、一人で行きにくかったら一緒にいきますよというのは呼びかけてました。E君以外でも廊下で会ったらずっと気になっていましたので、ダイレクトに水泳のことは言えませんが、その後どうやとか声はかけていました。

(聴き取りのところにも入っておられましたし)

自分としては、水泳のことで話をしようという事は出来ませんので、彼らもそれぞれ色々な思い入れがあるので、特に■■■先生と学生たちがこのままという事は一番気になっていましたので。

(今おっしゃった以外にも結構あるのかと思っていたんですが。当時の学生との接点が。)

そう言う会を設けるのは、■■■先生は何もおっしゃらないのでこれはマイナスだと思ったので。C君と■■■先生と私とでゆっくり話をしたこともあります。

○前泊したDさんに、■■■係長(当時)と聴き取りをされておられますが、報告書以外に気になった点等ありませんでしょうか。

ありません。後の方で、■■■さん宅にD君に声を掛けて一緒に行っているんですね。そしたら■■■さんがカギの束をD君に見せて、D君のアパートの鍵はありますかとおっしゃったんです。そしたら彼はないとそこではっきり言いましたので。私が■■■さんとオフィシャルにD君に聴き取りをした時に早く出たとD君が言ったというのは、聞き間違いだったのかと。後で分かりましたけど。

(そのカギというのは頑希君が事故にあったとき所持していたものということですね。)

そうですね。

○事故以降、同行した当時の学生やDさんとの対応を頂いておりますが、どのような配慮や意識を持って対応されてこられたのでしょうか（調査協力や精神的ケア）。また、学科長として、いつ、誰に、どのような指示をしましたか。

1人では■さんのところに行きづらいだろうと、勝手に思ったらいけないが、彼らはまだ若いので、いい意味であの時自分がこうしていればとかという気持ちがあったかも知れないので、行くならいつでも一緒に行きますよと言ってました。卒業してからE君と私とで一回一緒に行っています。その時に■さんという卒業生がいたので、その卒業生も一緒に行きました。

（■さんのお宅に行くことは、学生に指示をしたということではないんですね。）

行きなさいと言うと色々あるんで、行く気が有るなら私も一緒に行かせてもらおうと言ったんです。■大学卒業の卒業パーティの後の学部ごとの祝賀会があるんです。来ている学生は200名のうちの100名いたかどうかで、教員も3分の1ぐらいですが、■みんながいるところなので深いことは言えませんが、近くに行って何かあったら私にメールとかしてくれよといいました。■担任が■先生でしたので、■先生にも私の可能な範囲で言えることで、こういう状況でということは申し上げておりました。

○事故後、検討チームを主宰され報告書を作成頂きましたが、作成に相当な時間が経過しているのはどうしてですか。本件の問題点等に関しては、その報告書に表現されていると考えてよろしいでしょうか。記載内容以外のコメント等がありますか？

あまり時間経過していると思ってないんです。大学が事故後の2カ月ぐらいで第1報を出されて、それは時系列で何がどうやったということだけで、それは違うという事を間接的に、あるいはダイレクトに対策本部会議で言ったんですけど、犯人探しをするのは良くないと言われて、私はしんどいなと思ったことがあります。やっとなら対策本部で教育学部のメンバーで検討することが決まったのが平成29年5月末だったと思います。29年の5月に検討チームを立ち上げさせて欲しいと。検討チームか検証チームか名前は別としてですね。

（正式には検討チームですね。）

その時に第1報として私どもで出したのは、5月ぐらいに発足して9月に出してるんですね。それに色々コメントが入って、第2報第3報と書いています。で、ここが一番大事なところだと思うので、私はずっと報告書は、普通のイベントがあった報告書じゃなくて、■さんになびくという意味ではないんですが、■さんが納得される報告書を出さなかったら全く無駄だと思ってましたので。しかも教育機関なので、教育的にここはどういう課題があったのかという事を出さないといけない、ということを第1報にも書かせて頂きました。その時にはもう10分以上潜っていたという事は分かっていたんですが、そういうことを現在作成中の報告書の第4章で書かせてもらってますが、そういうところの議論がないというのがさみしい限りですね。私の文言が悪いとか、文章になっていないとか、対策本部会議で厳しいコメントも頂きましたけど、その内容に対して、教育機関として報告書を出すときに、その10分以上沈んでいたこととか、長時間座ったまま監視していた事実について、誰もコメントして下さらないのがつらいと思っているんです。まあある意味で正しいと思って頂いているのかも知れませんが、たぶん雰囲気としては今までの流れではそういうことは無いのに。あれは正直言って辛かったですね。もっと本来の事故の起こった課題とかのところで大学としてどう考えるのかという事が、なかなか表に出なかった。で、それがつらかったので、第1報のところで、まとめて代えてという形で、■学科長の責任とということを書かせてもらったのは、今回のことに下手したら誰も責任を取ろうとしていないと思えたので、■学科長を

前面に出した。■■■学科長の考えとして、まとめに代えてと書いておけば、他の人は触りにくいだろうと思って。名前が検討か検証かというのが。検討というのは今後どうするかというのが検討だと思いますが、検討するためには今回何が課題だったかの検証が必要だったと思います。私の心の中では、私も含めて教育学部の教員が、気が付いていることがいっぱいあるということを、先ずは私たちが言わないといけなと思っています。それが■■■さんに見てもらうにしろ、他の先生に見てもらうにしろ。教育学部の教員がいるのになぜ気が付かなかったのかというのが一番タブーだと思っていましたので。私たちの気づいたものをまず書いた上で、それからアドバイスをもらって、ごもっともだなあというのが欲しかったんで。そういう意味で書かせてもらったんです。

(その意図も何となくくめるつもりでつもりでいますので、現状は傍観させて頂いておりますが、第三者への依頼にも一枚かませて頂く立場も頂けると思いますので)

そうですね。期待しています。この件で教育学部に、検討チームを作りなさいと言われたとは思ってないんです。私を含めて教育学部の教員のメンバーでチームを作らせて下さい。ですから学部会議でこういう検討チームを立上げてもいいかという事はしていない。対策本部会議で、■■■先生と■■■先生の名前を出して、この3人でやらせてくださいと。だから教育学部が出した報告書ではないと私は思っているんです。

(検討チームの報告書というのは、最初があって、一旦できて、第3報を作って、その後)

1、2、3とあったんです。それは、■■■先生とかのアドバイスもあって、どんどん直して行ってるんです。少しは妥協してでも1日も早く公表したかったのです。

○教育学部検討チーム報告書の作成に対し、■■■学部長とやり取りをされていたとのことですが、具体的な内容を教えてください。その他、検討チーム報告書の内容について、いつ、誰と、どのような話をしましたか。また、検討チーム報告書の内容について誰かの指示を受けましたか。

これは報告書の中味で、学部長だから相談したということはしていないと思っています。学部会議で頻繁に水泳のことを報告していますので、これは学部のメンバーに言っていないかどうかというのは、事前に■■■学部長に相談して、このことは言っておきましょうかと聞いてしていました。■■■先生から色々アドバイスをもらったのはあくまでも対策本部のなかの■■■先生としてアドバイスをもらったと思っています。

(対策本部内で対策本部の依頼に基づいて作られている検討チームの報告書について、学部教員にどこまで開示していいのかとか、そういう相談、やり取りがあったということですね。)

そうですね。いつか対策本部会議で、私もたまたまかねて、議決を取って下さいと言ったことがありましたね。開示するかどうかについて、否決されましたが、私は早く出して欲しかった。心の中では、事が分かればわかるほどシンプルな事故だと思ってました。複雑ではないと思った。今になったら色々なからみで複雑になってますけど。一般の先生方が何も知らない状況で、時間がたてばたつほど、■■■さんが何か特別な要望を出されているのか、表現悪いけどごねてるのかみたいになるというのが私にとっては一番してはいけないことだと思ったんですね。早く表に出して欲しい、だからその中身に対して早く出して欲しいと言った時にアドバイスをもらったので、そのとおり変えていって第2報、第3報となっていっているんです。逆に言うと私は第1報について修正すると思っていないんですね。第1報として対策本部に出して、それに対してコメントもらって修正して、また色々コメントもらって修正と。それで時間がかかっているだけで、基本的なところは全く変わってないと思っています。削除はされた部分もありますが。

(検討チームの報告書の内容に関して、誰かに指示を受けましたか。)

途中、対策本部として色々コメントはありますが、対策本部の中でこれは良くないという内容の意味では議論はしていないと思うんです。対策本部のメンバーとして私にコメントをもらったなら、私は修正していましたが、対策本部全体でこ

の文章は良くないではないか、ここを削除してといった議論をした記憶はないです。

(表現のことについては私も言い合った部分はあったと思いますが、■■■■先生とある先生を比較したところで出来てる出来てないみたいな部分については、事実としてそうなのかも分からないですが、■■■■先生に対し感情的な表現があったので、表現的にまずいのではないかという意見はしました。)

そういうことは、書くときは自分としてまっすぐに前見て書いていましたので、それを言われてももっともやとも思いましたが、その時は心の中で、対策本部会議のメンバーは、何が課題だったかについて共通認識を持っているのかという疑いがずっとありました。ですからこういう強い表現をしないと分かってくれないのではないかと、感情的ではなく、監視等が杜撰であったからです。

(表現を変えたということが指示ということであれば、対策本部の指示ということになるんでしょうか。内容は変えてないのですが。)

削除されたところがありますよね。例えば事故が起こってなかなか弔問に行かないということは、私にとっては理解できないことだったのですが、その内容は事故後のことだからと言って削除されました。私も言ってもむだと考えて削除していますが、対策本部会議の議論をしていない状況だと認識しています。時間がたてばたつほど、事後のことがからんでくるんですよね。それは気持ちの中では、きちんと報告書の文章が出来上がるだろうと思いますが、その時に、人として■■■■さんにどう対応しているのかということが、■■■■さんに伝わらなかったらどんな報告書を出しても無駄だと。仮に完璧な時系列の報告書を出しても、■■■■さんが畿央大はよくやってくれたなと思われたい限り、色々なところを指摘されると思いますので、私たちはいかに頑希くんのことを思って事故の振り返りを人間としてしているかということ、どういう形で■■■■さんに伝えるかということかと思うんですよね。それでそれはもう■■■■さんに会うしかないと思ってるんです。

(私は専門家なので、ご遺族のためではいけないんです、事実のためなんです。だけど心情的にはご遺族のためなんです。私は、■■■■先生の気持ちの分かる部分があって、まっすぐに正直で熱血でいらっしゃるんですよ。私もそうだと思うんでね。先生のお気持ちは個人としてはよく分かる。)

私も事実のためと認識しています。私は今日はもう最後だと思って言わせてもらってますけど、再度聴き取りということはないと思っていますので、今言わないという機会がないと思ってますので。

○本学の作成してきた報告書に関し、お考えになったことや、不備な点等について何かコメントはありますか？

一つ手前の質問で、女子の実習と比較したというところがありますが、畿央大学の中で実習に対するノウハウがあったにもかかわらずそれが生かせなかったというのが残念なんですよ。事前に、それは私の学科長としての責任はあると思いますが、男子女子こややってやるということが事前に相談があったら、女子はこういうことをしている、男子もしようじゃないかと言えたのが、男子は全く相談もないし、私の完全に信頼していたというのもありますし。畿央大のメンバーにはちゃんとするだけの力量はあるとは思ってますので、そのことは表に出したかったんです。でなければ、全ての教育学部あるいは大学でするイベントがこういう状況かと思われるのが、学科長として辛い、みんなに申し訳ないと思っていましたので。もう一つは、いつの日か学生、卒業生、教職員等に自主的に■■■■先生が事故のことを直接語りかけてくれることが、頑希くんにとっても、■■■■先生にとっても必要だと思います。その意味で■■■■先生が、その方向に進んで行けるように、私たち関係者が■■■■先生にどう対応していたかも報告書に記載して欲しいと願います。

○本学の作成してきた報告書に関し、「事故原因の究明」についてはどのように考えていますか（「再発防止」との関連について・報告書に盛り込むことについて）。

私は特に事故原因は、事前の準備というのは書いてましたけど、第4章で書いているのが50mプールでの状況でしたの

で、そこに書いています。■■■さんの言葉を借りると、重大化というのがありますね。私は何で命がなくなったのかということについては、関知できない。10 分間沈んでいた状況を生み出した、それはだから亡くなったということではなく、監視体制ができていなかったというのが大きな原因であると思っているんです。だからと言って彼が沈んですぐ引き揚げても助かっていたかは分からない。私は死因ではなくて、10 分間沈んだままであったその状態を問題視したいと思っています。

(重大化は事故事実の中に入ると考えています。実際に何が起きたのか、その何が起きたのが事故を重大化させたのだと思いますし。)

(それらのことは関係者全員一致していると考えます。■■■さんがこのことを我々におっしゃったときに全員が腹に落ちていると思います。)

私が原案を作った第 4 章の内容で。

○事故後、■■■家族を通じて共有できた本件事故に関する各種資料について、いつ、どのように活用してきましたか。

これはもう私にとっては大変有難かった。樫原市が■■■さんと一緒に我々にも出してくれたのでね。あれで分かった。ビデオだけでなく秒単位に実習中の行動が分かりました。第 4 章の作成では頻繁に使わせてもらいました。あれがなかったら抽象的な表現しかできなかった。

(静止画は黒塗りしてあるので分かりにくい部分もありましたが、時間経過ははっきりわかるものです。)

私は樫原市の会議に出させてもらったから、本当に細かい資料をもらっていますから。

(それは樫原市から共有頂いた資料ですね。ここでおっしゃっているのは■■■さんの家から頂いたものですね。一番大きなのはその静止画像の資料ですね。あれがなかったらあの時に我々は時間軸が全く分からなかった。)

樫原市が静止画の資料をくれたのは、■■■さんが動いてくれていたからだろうと想像しているんです。

(■■■さんから提供された資料の活用についてお聞きしたんですが、その後結果的に樫原市が情報開示してビデオ動画の閲覧ができるようになったじゃないですか。今はもう閲覧した後になりましたが、■■■さんから提供された資料と、実際に閲覧した動画との間に、何か誤認とかはなかったですか。)

思い違いはないですね。より精度を上げて分かったということですね。

○本件事故に関する調査方針の決定や調査報告書の作成、対応ポリシーについて、「水泳事故対策本部」と「理事長室会議」の役割や位置づけについて、どのように認識していますか。各種対応に関する意思決定や判断・指示、必要情報の共有は、どのように行われてきましたか。

私は今回理事長室会議が前面に出てくださったことは有難いと思っていますが、教育的側面から考えると、対策本部というのが学内のメンバーでやっているから、そこが主導すべきだと。対策本部会議で決まったことがそのまま通ると思っていないのですが、教育的側面の原案的なものは対策本部会議で作るべきだと考えています。結果的には理事長室会議で決まることは仕方ないと思っていますが。対策本部会議の知らないことが理事長室会議で決まって、ご遺族に渡っていたということがありましたよね。何であんなったのか分かりませんが。対策本部会議のメンバーの主だった方は理事長室会議にのメンバーでもあるんですよ。対策本部にその情報を下ろしてくれるのはありがたいのですが、理事長室会議でこういうことが出たと言われても反対しづらいじゃないですか。■■■先生や■■■さんや■■■さんは理事長室会議のメンバーですから、それ以外のメンバーは 3、4 人ですから意見が言えるはずがないじゃないですか。そこは絶対に変えて欲しいです。あるいは理事長室会議で全部決めるとするなら話は別ですが。理事長室会議で決まったと対策本部会議に持つてくるのに、形の上では変えられる可能性はあると言われても、誰も反論しづらい。

(■■■先生の聴き取りの中で、対策本部会議をもっと頻繁に定例的にやっていきたいとの発言がありました。短時間でもよいので定例でやりたいと。重たい議題があるときはじっくりやるが、定例的に簡単でもやりたいと言っておられました。その話の中で、この重大案件が学校の中で責任の所在が明確ではないんですよ。結局は最終的には学校が責任を取らないといけないんですよ。学校として責任を負うとなると経営判断が必要になってくる。逆に水泳事故対策本部会議は実務である。事実を究明することであったり、ある意味で実務を行っていくところですね。そういった二人三脚の役割が明確になってうまく機能していけばいいとは思いますが。経営責任を取れる理事長室会議と、事実究明の実務を担う対策本部がよりよく機能してもらいたいと思うところです。)

言葉不足だったかも知れませんが、理事長室会議でこう決まったので対策本部会議に報告しますならいいですよ。私たちの意見を聞くようなふりをして、実際には聞くような雰囲気ではないということなんです。そこを問題にしているんです。対策本部会議を一つの盾にされているような気がします。

(役割分担と同時に連携も整理していかないといけないですね。)

私は理事長室会議がある意味でトップに立つというのは当たり前だと思っているんです。

(本来は理事会です。)

理事会ですけど。当然上下関係という表現は良くないですけど、理事長室会議の方が最終決定があるというのは十分理解しています。いかにも対策本部会議の意見をもらったような雰囲気はやめて下さいという事を言いたいんです。

(連携の仕方は配慮が必要という事ですね。)

こういう声が出ていられるけれども、対策本部会議としてどうですかなりたいんですけど、上で実は決まっているんですけどと言われると、自分は何をしに来たのかと思いますよね。

(その辺をきちんとやっていこうということですね。)

○事故以降、主体的にご遺族との対応を頂いておりますが、どのような配慮や意識を持って対応されてこられたのでしょうか。

抽象的かも知れませんが、私は色々なことがあっても■■■さんご家族と直接お会いするというのが大前提だと思っています。今の時代だからメールだとかありますけど、お会いするという事がどんなことがあっても欠けることはいけないと思います。それから■■■さんの方の気持ちになると、大義名分で大学に来れるような雰囲気を作りたい、作らなければならないと思っています。生命倫理の話に来てもらったとか、頑希君の同級生たちが卒業する間際の1月に4回生に■■■さんから話を頂くのをお願いしたのも、私が皆さんから見ると独走したように思うかも知れませんが、この機会を逃したら大義名分がない、だから■■■さんが大学としたら来たら困ると誰も言ってませんが、来る状況を私たちが精いっぱい作らないと思っています。何かお話があるなら来てくださいと言っても、来ていただくことは困難でしょう。多くの場合は。何か小さなことでもこういうことでご相談があるからということ、些細なことでも作るというのが大きな仕事だと思って。私はたぶん独走している可能性はあると思いますが、いろんな意味で■■■さんが来やすい、大義名分で来やすいというので動いているというのは、私の気持ちがあるんですね。自分を正当化しているのとは違いますよ。そういう動きを大学がするというのは、そこが私としては大事だと思ったからです。

○事故から3年以上が経過した今、亡くなった畿央大学生 寺岡頑希さんに対して思うことを話してください。

頑希君に本当に謝りたいです。それは私の教員生活で、何かの縁で死亡事故というのに対応してきていて、それを皆さん方、特に対策本部会議のメンバーに上手く伝えられなくて、自分が浮いたような状態になってしまっ。ほんととはもつと私の表現によって、頑希君が、生き返るという事はないんですが、それを受けた、事故が畿央大で起こったことに対し

て、対応だけでも。対応というとは何か対処手当みたいになるんですが、事故が起こったという事に対する後の動き、そこがなかなか私の考えが特殊だったのかも分かりませんが、頑希君に申し訳ないと思っています。正しいかどうかという事ではなくて、ものすごく悔いが残っています。そういう意味で申し訳ないと思っています。

穏やかな話として、最後、彼が特別な集中治療室に入ってたじゃないですか。面会も親族の方でも限られた時間で。一旦、一般の集中治療室に入られたんですよね。亡くなる 3, 4 日前でしたか。その日、私たまたまお見舞いに行った時に、お父さんおられなかったんですが、弟さん妹さんお母さんがおられて、良かったら入って下さいとおっしゃってくださったので、1 時間ぐらいずっと、必死にご家族の方も過去の思い出というか、目の前に頑希君が横たわっているんですね。そのいい意味で私の残像で、ひょっとしたらあのまま回復かという可能性もあったのかも知れませんが、結局また元の治療室に戻られたんで。あの 1 時間強、弟さん妹さんお母さんと色々な話をして、私も可能な範囲で話題に入らせてもらったというのが、私にとって宝なんですよ。その時に見たら、本当に単に昼寝しているような雰囲気でしたので。だから余計、亡くなる最後の姿を 1 時間見させてもらったということでは、■■■■ご家族の素晴らしさ、頑希君の■■■■家における立ち位置とか。なのに頑希君を失ったことに頑希君に対して何かしないといけない。ただ、何かしなければいけないというのは、1 時間いた時に何を感じたかというのを、対策本部の方々に伝えきれないというのが、私としては申し訳ないし、力不足を感じます。

以 上